

科目名		アンサンブルⅣ		担当講師		曾山、木村、田森(正)、田森(仁)、水口、松並	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		405 分
期		修 得 目 標					
7期		より魅力的な楽曲作りとより魅力的な表現。					
8期		卒業ライブに向けての楽曲制作とスキルアップ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日/6日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
2	10月12日/13日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
3	10月19日/20日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
4	10月26日/27日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
5	11月2日/9日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
6	11月10日/16日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
7	11月17日/24日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
8	11月30日/ 12月1日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル①					
9	12月7日/8日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル②					
10	1月18日/19日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル③					
11	1月25日/26日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル④					
12	2月1日/2日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル⑤					
13	2月8日/9日	卒業ライブに向けた最終チェック					
14	2月15日/16日	卒業ライブに向けた最終チェック					
評価方法		実技習得度(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		126時間中43時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽理論Ⅱ			担当講師	谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師					
対象学年		2	学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻	授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		これまで習得した知識を自分の意図する音楽作りに活用できる力を習得する					
8期		作曲・編曲の実践力を高め、柔軟に応用できる力を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	理論を活用したアレンジ法1					
3	10月20日	上記課題の記譜および別アレンジ					
4	10月27日	理論を活用したアレンジ法2					
5	11月10日	上記課題の記譜および別アレンジ					
6	11月17日	理論を活用したアレンジ法3					
7	11月24日	上記課題の記譜および別アレンジ					
8	12月1日	理論を活用したアレンジ法4					
9	12月8日	上記課題の記譜および別アレンジ					
10	1月19日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-1					
11	1月26日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-2					
12	2月2日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-1					
13	2月9日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-2					
14	2月16日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-3					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTMIV		担当講師		谷津 裕子	
講師実務経験		大学非常勤講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像やストーリー等他分野との関連や、時間制限などを意識した楽曲制作ができる力を習得する					
8期		様々な場面、状況に対応して総合的な楽曲制作ができる力を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	音楽と他分野との関連・音楽のもたらす効果					
3	10月21日	テーマ・制限に沿った制作 1					
4	10月28日	テーマ・制限に沿った制作 1					
5	11月4日	テーマ・制限に沿った制作 2					
6	11月11日	テーマ・制限に沿った制作 2					
7	11月18日	テーマ・制限に沿った制作 3					
8	11月25日	テーマ・制限に沿った制作 3					
9	12月2日	テーマ・制限に沿った制作 4					
10	1月20日	テーマ・制限に沿った制作 4					
11	1月27日	テーマ・制限に沿った制作 4					
12	2月3日	テーマ・制限に沿った制作 5					
13	2月10日	テーマ・制限に沿った制作 5					
14	2月17日	テーマ・制限に沿った制作 5					
評価方法		実技習得度(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズムⅡ		担当講師	神田 直樹		
講師実務経験		音楽教室、通信制高等学校勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		音符によるリズムの理解を習得。					
8期		ジャンルごとによるリズムを習得					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	3連系の種類について					
3	10月21日	連符の種類について					
4	10月28日	変拍子について					
5	11月4日	16分のウラについて					
6	11月11日	キメとブレイクについて					
7	11月18日	呼吸とリズムについて					
8	11月25日	ビートのある音楽について					
9	12月2日	世界のリズムについて①					
10	1月20日	世界のリズムについて②					
11	1月27日	世界のリズムについて③					
12	2月3日	ポリリズムについて					
13	2月10日	筆記試験対策授業					
14	2月17日	実技試験					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習Ⅳ		担当講師		田森 仁子	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		2 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		オリジナル曲の充実と共に、洋楽を歌うことを修得する。					
8期		卒業ライブに向けてオリジナル曲のライブパフォーマンスとヴォーカルテクニックを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
2	10月15日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
3	10月22日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
4	10月29日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽①					
5	11月5日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽②					
6	11月12日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽③					
7	11月19日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽④					
8	11月26日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック①					
9	12月3日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック②					
10	1月21日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック③					
11	1月28日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
12	2月4日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
13	2月18日	実技試験、個々のボーカルテクニックを再確認する					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習Ⅳ		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		バックিং&ソロプレイ					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるメロディープレイ					
2	10月15日	AG・EGメカニカルトレーニング/インプロビゼーション考					
3	10月22日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるバックিং&ソロワーク					
4	10月29日	AG・EGメカニカルトレーニング/ボルトネック奏法					
5	11月5日	AG・EGメカニカルトレーニング/オルターヴ奏法					
6	11月12日	AG・EGメカニカルトレーニング/エフェクター&ケーブル考・実践					
7	11月19日	AG・EGメカニカルトレーニング/トーンメイキング<AMP・EF>					
8	11月26日	AG・EGメカニカルトレーニング/与えられたリズムパターンでのソロワーク					
9	12月3日	AG・EGメカニカルトレーニング/メロディフェイクからのソロワーク					
10	1月21日	AG・EGメカニカルトレーニング/ヒアリングソロセッション					
11	1月28日	AG・EGメカニカルトレーニング/スタンダードプレイとミスマッチプレイ					
12	2月4日	AG・EGメカニカルトレーニング/主要テクニック仕上<チョーキング・ヴィブラート>					
13	2月18日	AG・EGメカニカルトレーニング/独創的発想実践					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習Ⅳ		担当講師		木村 圭子	
講師実務経験		プロベシスト・音楽スクール講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		多種多様な演奏スタイルとグルーヴの習得と、より高度なテクニックの習得					
8期		習得した知識・演奏スキルを応用して、自分ならではのベースラインメイキングができる					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	課題曲 Jazz I ウッドベース walkingbassについて					
2	10月15日	課題曲 Jazz II フレットレスベース ハーモニクスについて					
3	10月22日	課題曲 Bossa & Samba ブラジル音楽について コードプレイ/ベースアンサンブル					
4	10月29日	課題曲 Reggae Reggaeグルーヴとパームミュート					
5	11月5日	SlapⅢ 応用バリエーション ポリリズムについて					
6	11月12日	SlapⅣ 応用バリエーション 複雑なサムピング & プルコンビネーション					
7	11月19日	アドリブについて I					
8	11月26日	アドリブについて II					
9	12月3日	課題曲 I Rock ベースラインメイキング					
10	1月21日	課題曲 II Pops ベースラインメイキング					
11	1月28日	課題曲Ⅲ Ballade ベースラインメイキング					
12	2月4日	課題曲Ⅳ R&B Slap ベースラインメイキング					
13	2月18日	実技修得度試験・まとめ					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		読譜・リズムトレーニング・フィンガリングトレーニングは毎レッスン実施					
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習Ⅳ		担当講師		田森 正行	
講師実務経験		音楽家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		ジャズにおけるリズムパターン、フィルインを修得する。変拍子を修得する。					
8期		リニアパターンを使った高度な演奏力を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	シンバルレガートの修得と、レガート中の左手のバリエーションの練習					
2	10月15日	レガート中の右足のバリエーションの練習					
3	10月22日	ジャズにおいてよく使われるフィルインと高度なフィルイン					
4	10月29日	ジャズの演奏形態を体験する。1コーラスの概念を修得する					
5	11月5日	スタンダードジャズの実演					
6	11月12日	変拍子のパターンの練習					
7	11月19日	変拍子の曲中にフィルインを入れる練習					
8	11月26日	変拍子の曲の実演					
9	12月3日	リニアパターンを用いたリズムパターン					
10	1月21日	リニアパターンを用いたフィルイン					
11	1月28日	リニアパターンを多用した曲の実演					
12	2月4日	ドラムソロの考え方					
13	2月18日	1年間のまとめ テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽史		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		1930年代以降のアメリカ・ポピュラー音楽史を学び現代を知る					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	日本のポップスはどこから来たのか					
2	10月15日	レコードが安定普及されはじめた1930年代について					
3	10月22日	1940年代～					
4	10月29日	1950年代～ ロック誕生～					
5	11月5日	1960年代～					
6	11月12日	1970年代～					
7	11月19日	1980年代～					
8	11月26日	1990年以降					
9	12月3日	ポピュラー音楽を支えてきた楽器について(Gt・Ba)					
10	1月21日	ポピュラー音楽を支えてきた鍵盤楽器について					
11	1月28日	ポピュラー音楽を支えてきたマイクロフォンについて					
12	2月4日	ポピュラー音楽史に残る発明家・レスポール氏					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		音楽ビジネス		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家歴37年・JASRAC・MPN個人会員					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		音楽産業を学び、自己の立ち位置を理解する					
8期		著作権法から音楽家としての権利を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	音楽産業からみる音楽の仕事					
2	10月15日	レコード会社について<メジャー・ミニメジャー・インディーズ>					
3	10月22日	プロダクションについて					
4	10月29日	著作権について<印税など>					
5	11月5日	音楽出版会社について					
6	11月12日	音楽家としての契約について					
7	11月19日	メスメディアについて					
8	11月26日	プロへの道のり～事例					
9	12月3日	ライブハウス考					
10	1月21日	オーディションと称する落とし穴について					
11	1月28日	音楽制作の現状					
12	2月4日	プロフェッショナルの心構え					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		聴音		担当講師		松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		音程を覚えて聞き取ることを修得する。					
8期		実際の曲を聞き取り、実践的なスキルを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス・前期の復習(リズム・短音小テスト)					
2	10月15日	簡単な旋律聴音①(8小節聞き取り全音符)					
3	10月22日	簡単な旋律聴音②(8小節聞き取り2分音符)					
4	10月29日	簡単な旋律聴音③(8小節聞き取り4分音符)					
5	11月5日	簡単な旋律聴音④(8小節聞き取り8分音符)					
6	11月12日	簡単な旋律聴音⑤(8小節聞き取り様々な音符)					
7	11月19日	曲を聞いてメロディを聞き取る①サビ					
8	11月26日	曲を聞いてメロディを聞き取る②サビ					
9	12月3日	曲を聞いてメロディを聞き取る③サビ					
10	1月21日	曲を聞いてメロディを聞き取る④コード付け					
11	1月28日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑤コード付け					
12	2月4日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑥コード付け					
13	2月18日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		Key実習		担当講師	松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト				
対象学年	2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間	7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標				
7期		ピアノの構造について学び、連弾曲や弾き語りなど様々な曲に挑戦する。				
8期		自由曲を用いて、ピアノの技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月9日	前期の復習(基礎練習ハノン・スケール・カデンツ)				
2	10月16日	ハノン・連弾曲①				
3	10月23日	ハノン・連弾曲②				
4	10月30日	ハノン・連弾曲③				
5	11月6日	実技試験(連弾)				
6	11月13日	ピアノについて(座学・教室で行う)				
7	11月20日	ハノン・弾き語り①				
8	11月27日	ハノン・弾き語り②				
9	12月4日	ハノン・弾き語り③				
10	1月22日	ハノン・自由曲①				
11	1月29日	ハノン・自由曲②				
12	2月5日	ハノン・自由曲③				
13	2月12日	ハノン・自由曲④				
14	2月19日	実技試験				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		アンサンブルⅣ		担当講師		曾山、木村、田森(正)、田森(仁)、水口、松並	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		405 分
期		修 得 目 標					
7期		より魅力的な楽曲作りとより魅力的な表現。					
8期		卒業ライブに向けての楽曲制作とスキルアップ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日/6日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
2	10月12日/13日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
3	10月19日/20日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
4	10月26日/27日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
5	11月2日/9日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
6	11月10日/16日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
7	11月17日/24日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
8	11月30日/ 12月1日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル①					
9	12月7日/8日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル②					
10	1月18日/19日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル③					
11	1月25日/26日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル④					
12	2月1日/2日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル⑤					
13	2月8日/9日	卒業ライブに向けた最終チェック					
14	2月15日/16日	卒業ライブに向けた最終チェック					
評価方法		実技習得度(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		126時間中43時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽理論Ⅱ			担当講師		谷津 祐子			
講師実務経験		大学非常勤講師								
対象学年		2	学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義		
期 間		7期・8期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135	分
期		修 得 目 標								
7期		これまで習得した知識を自分の意図する音楽作りに活用できる力を習得する								
8期		作曲・編曲の実践力を高め、柔軟に応用できる力を習得する								
回数	日程	【授 業 計 画】								
1	10月6日	授業ガイダンス								
2	10月13日	理論を活用したアレンジ法1								
3	10月20日	上記課題の記譜および別アレンジ								
4	10月27日	理論を活用したアレンジ法2								
5	11月10日	上記課題の記譜および別アレンジ								
6	11月17日	理論を活用したアレンジ法3								
7	11月24日	上記課題の記譜および別アレンジ								
8	12月1日	理論を活用したアレンジ法4								
9	12月8日	上記課題の記譜および別アレンジ								
10	1月19日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-1								
11	1月26日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-2								
12	2月2日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-1								
13	2月9日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-2								
14	2月16日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-3								
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)								
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)								
テキスト										
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)								

科目名		DTMIV		担当講師		谷津 裕子	
講師実務経験		大学非常勤講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像やストーリー等他分野との関連や、時間制限などを意識した楽曲制作ができる力を習得する					
8期		様々な場面、状況に対応して総合的な楽曲制作ができる力を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	音楽と他分野との関連・音楽のもたらす効果					
3	10月21日	テーマ・制限に沿った制作 1					
4	10月28日	テーマ・制限に沿った制作 1					
5	11月4日	テーマ・制限に沿った制作 2					
6	11月11日	テーマ・制限に沿った制作 2					
7	11月18日	テーマ・制限に沿った制作 3					
8	11月25日	テーマ・制限に沿った制作 3					
9	12月2日	テーマ・制限に沿った制作 4					
10	1月20日	テーマ・制限に沿った制作 4					
11	1月27日	テーマ・制限に沿った制作 4					
12	2月3日	テーマ・制限に沿った制作 5					
13	2月10日	テーマ・制限に沿った制作 5					
14	2月17日	テーマ・制限に沿った制作 5					
評価方法		実技習得度(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズムⅡ		担当講師		神田 直樹	
講師実務経験		音楽教室、通信制高等学校勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		音符によるリズムの理解を習得。					
8期		ジャンルごとによるリズムを習得					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	3連系の種類について					
3	10月21日	連符の種類について					
4	10月28日	変拍子について					
5	11月4日	16分のウラについて					
6	11月11日	キメとブレイクについて					
7	11月18日	呼吸とリズムについて					
8	11月25日	ビートのある音楽について					
9	12月2日	世界のリズムについて①					
10	1月20日	世界のリズムについて②					
11	1月27日	世界のリズムについて③					
12	2月3日	ポリリズムについて					
13	2月10日	筆記試験対策授業					
14	2月17日	実技試験					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習Ⅳ		担当講師		田森 仁子	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		2 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		オリジナル曲の充実と共に、洋楽を歌うことを修得する。					
8期		卒業ライブに向けてオリジナル曲のライブパフォーマンスとヴォーカルテクニックを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
2	10月15日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
3	10月22日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
4	10月29日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽①					
5	11月5日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽②					
6	11月12日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽③					
7	11月19日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽④					
8	11月26日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック①					
9	12月3日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック②					
10	1月21日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック③					
11	1月28日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
12	2月4日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
13	2月18日	実技試験、個々のボーカルテクニックを再確認する					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習Ⅳ		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		バックিং&ソロプレイ					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるメロディープレイ					
2	10月15日	AG・EGメカニカルトレーニング/インプロビゼーション考					
3	10月22日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるバックিং&ソロワーク					
4	10月29日	AG・EGメカニカルトレーニング/ボルトネック奏法					
5	11月5日	AG・EGメカニカルトレーニング/オルターヴ奏法					
6	11月12日	AG・EGメカニカルトレーニング/エフェクター&ケーブル考・実践					
7	11月19日	AG・EGメカニカルトレーニング/トーンメイキング<AMP・EF>					
8	11月26日	AG・EGメカニカルトレーニング/与えられたリズムパターンでのソロワーク					
9	12月3日	AG・EGメカニカルトレーニング/メロディフェイクからのソロワーク					
10	1月21日	AG・EGメカニカルトレーニング/ヒアリングソロセッション					
11	1月28日	AG・EGメカニカルトレーニング/スタンダードプレイとミスマッチプレイ					
12	2月4日	AG・EGメカニカルトレーニング/主要テクニック仕上<チョーキング・ヴィブラート>					
13	2月18日	AG・EGメカニカルトレーニング/独創的発想実践					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習Ⅳ		担当講師		木村 圭子	
講師実務経験		プロベーシスト・音楽スクール講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		多種多様な演奏スタイルとグルーヴの習得と、より高度なテクニックの習得					
8期		習得した知識・演奏スキルを応用して、自分ならではのベースラインメイキングができる					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	課題曲 Jazz I ウッドベース walkingbassについて					
2	10月15日	課題曲 Jazz II フレットレスベース ハーモニクスについて					
3	10月22日	課題曲 Bossa & Samba ブラジル音楽について コードプレイ/ベースアンサンブル					
4	10月29日	課題曲 Reggae Reggaeグルーヴとパームミュート					
5	11月5日	SlapⅢ 応用バリエーション ポリリズムについて					
6	11月12日	SlapⅣ 応用バリエーション 複雑なサムピング＆プルコンビネーション					
7	11月19日	アドリブについてⅠ					
8	11月26日	アドリブについてⅡ					
9	12月3日	課題曲Ⅰ Rock ベースラインメイキング					
10	1月21日	課題曲Ⅱ Pops ベースラインメイキング					
11	1月28日	課題曲Ⅲ Ballade ベースラインメイキング					
12	2月4日	課題曲Ⅳ R&B Slap ベースラインメイキング					
13	2月18日	実技修得度試験・まとめ					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		読譜・リズムトレーニング・フィンガリングトレーニングは毎レッスン実施					
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習Ⅳ		担当講師		田森 正行	
講師実務経験		音楽家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		ジャズにおけるリズムパターン、フィルインを修得する。変拍子を修得する。					
8期		リニアパターンを使った高度な演奏力を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	シンバルレガートの修得と、レガート中の左手のバリエーションの練習					
2	10月15日	レガート中の右足のバリエーションの練習					
3	10月22日	ジャズにおいてよく使われるフィルインと高度なフィルイン					
4	10月29日	ジャズの演奏形態を体験する。1コーラスの概念を修得する					
5	11月5日	スタンダードジャズの実演					
6	11月12日	変拍子のパターンの練習					
7	11月19日	変拍子の曲中にフィルインを入れる練習					
8	11月26日	変拍子の曲の実演					
9	12月3日	リニアパターンを用いたリズムパターン					
10	1月21日	リニアパターンを用いたフィルイン					
11	1月28日	リニアパターンを多用した曲の実演					
12	2月4日	ドラムソロの考え方					
13	2月18日	1年間のまとめ テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽史		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		1930年代以降のアメリカ・ポピュラー音楽史を学び現代を知る					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	日本のポップスはどこから来たのか					
2	10月15日	レコードが安定普及されはじめた1930年代について					
3	10月22日	1940年代～					
4	10月29日	1950年代～ ロック誕生～					
5	11月5日	1960年代～					
6	11月12日	1970年代～					
7	11月19日	1980年代～					
8	11月26日	1990年以降					
9	12月3日	ポピュラー音楽を支えてきた楽器について(Gt・Ba)					
10	1月21日	ポピュラー音楽を支えてきた鍵盤楽器について					
11	1月28日	ポピュラー音楽を支えてきたマイクロフォンについて					
12	2月4日	ポピュラー音楽史に残る発明家・レスポール氏					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽ビジネス		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家歴37年・JASRAC・MPN個人会員					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		音楽産業を学び、自己の立ち位置を理解する					
8期		著作権法から音楽家としての権利を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	音楽産業からみる音楽の仕事					
2	10月15日	レコード会社について<メジャー・ミニメジャー・インディーズ>					
3	10月22日	プロダクションについて					
4	10月29日	著作権について<印税など>					
5	11月5日	音楽出版会社について					
6	11月12日	音楽家としての契約について					
7	11月19日	メスメディアについて					
8	11月26日	プロへの道のり～事例					
9	12月3日	ライブハウス考					
10	1月21日	オーディションと称する落とし穴について					
11	1月28日	音楽制作の現状					
12	2月4日	プロフェッショナルの心構え					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		聴音		担当講師		松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		音程を覚えて聞き取ることを修得する。					
8期		実際の曲を聞き取り、実践的なスキルを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス・前期の復習(リズム・短音小テスト)					
2	10月15日	簡単な旋律聴音①(8小節聞き取り全音符)					
3	10月22日	簡単な旋律聴音②(8小節聞き取り2分音符)					
4	10月29日	簡単な旋律聴音③(8小節聞き取り4分音符)					
5	11月5日	簡単な旋律聴音④(8小節聞き取り8分音符)					
6	11月12日	簡単な旋律聴音⑤(8小節聞き取り様々な音符)					
7	11月19日	曲を聞いてメロディを聞き取る①サビ					
8	11月26日	曲を聞いてメロディを聞き取る②サビ					
9	12月3日	曲を聞いてメロディを聞き取る③サビ					
10	1月21日	曲を聞いてメロディを聞き取る④コード付け					
11	1月28日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑤コード付け					
12	2月4日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑥コード付け					
13	2月18日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		Key実習		担当講師		松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		ピアノの構造について学び、連弾曲や弾き語りなど様々な曲に挑戦する。					
8期		自由曲を用いて、ピアノの技術を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	前期の復習(基礎練習ハノン・スケール・カデンツ)					
2	10月16日	ハノン・連弾曲①					
3	10月23日	ハノン・連弾曲②					
4	10月30日	ハノン・連弾曲③					
5	11月6日	実技試験(連弾)					
6	11月13日	ピアノについて(座学・教室で行う)					
7	11月20日	ハノン・弾き語り①					
8	11月27日	ハノン・弾き語り②					
9	12月4日	ハノン・弾き語り③					
10	1月22日	ハノン・自由曲①					
11	1月29日	ハノン・自由曲②					
12	2月5日	ハノン・自由曲③					
13	2月12日	ハノン・自由曲④					
14	2月19日	実技試験					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		アンサンブルⅣ		担当講師		曾山、木村、田森(正)、田森(仁)、水口、松並	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		405 分
期		修 得 目 標					
7期		より魅力的な楽曲作りとより魅力的な表現。					
8期		卒業ライブに向けての楽曲制作とスキルアップ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日/6日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
2	10月12日/13日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
3	10月19日/20日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
4	10月26日/27日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
5	11月2日/9日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
6	11月10日/16日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
7	11月17日/24日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
8	11月30日/ 12月1日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル①					
9	12月7日/8日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル②					
10	1月18日/19日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル③					
11	1月25日/26日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル④					
12	2月1日/2日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル⑤					
13	2月8日/9日	卒業ライブに向けた最終チェック					
14	2月15日/16日	卒業ライブに向けた最終チェック					
評価方法		実技習得度(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		126時間中43時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽理論Ⅱ			担当講師	谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師					
対象学年		2	学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻	授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		これまで習得した知識を自分の意図する音楽作りに活用できる力を習得する					
8期		作曲・編曲の実践力を高め、柔軟に応用できる力を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	理論を活用したアレンジ法1					
3	10月20日	上記課題の記譜および別アレンジ					
4	10月27日	理論を活用したアレンジ法2					
5	11月10日	上記課題の記譜および別アレンジ					
6	11月17日	理論を活用したアレンジ法3					
7	11月24日	上記課題の記譜および別アレンジ					
8	12月1日	理論を活用したアレンジ法4					
9	12月8日	上記課題の記譜および別アレンジ					
10	1月19日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-1					
11	1月26日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-2					
12	2月2日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-1					
13	2月9日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-2					
14	2月16日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-3					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTMIV		担当講師		谷津 裕子	
講師実務経験		大学非常勤講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像やストーリー等他分野との関連や、時間制限などを意識した楽曲制作ができる力を習得する					
8期		様々な場面、状況に対応して総合的な楽曲制作ができる力を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	音楽と他分野との関連・音楽のもたらす効果					
3	10月21日	テーマ・制限に沿った制作 1					
4	10月28日	テーマ・制限に沿った制作 1					
5	11月4日	テーマ・制限に沿った制作 2					
6	11月11日	テーマ・制限に沿った制作 2					
7	11月18日	テーマ・制限に沿った制作 3					
8	11月25日	テーマ・制限に沿った制作 3					
9	12月2日	テーマ・制限に沿った制作 4					
10	1月20日	テーマ・制限に沿った制作 4					
11	1月27日	テーマ・制限に沿った制作 4					
12	2月3日	テーマ・制限に沿った制作 5					
13	2月10日	テーマ・制限に沿った制作 5					
14	2月17日	テーマ・制限に沿った制作 5					
評価方法		実技習得度(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズムⅡ		担当講師	神田 直樹		
講師実務経験		音楽教室、通信制高等学校勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		音符によるリズムの理解を習得。					
8期		ジャンルごとによるリズムを習得					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	3連系の種類について					
3	10月21日	連符の種類について					
4	10月28日	変拍子について					
5	11月4日	16分のウラについて					
6	11月11日	キメとブレイクについて					
7	11月18日	呼吸とリズムについて					
8	11月25日	ビートのある音楽について					
9	12月2日	世界のリズムについて①					
10	1月20日	世界のリズムについて②					
11	1月27日	世界のリズムについて③					
12	2月3日	ポリリズムについて					
13	2月10日	筆記試験対策授業					
14	2月17日	実技試験					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習Ⅳ		担当講師		田森 仁子	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		2 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		オリジナル曲の充実と共に、洋楽を歌うことを修得する。					
8期		卒業ライブに向けてオリジナル曲のライブパフォーマンスとヴォーカルテクニックを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
2	10月15日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
3	10月22日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
4	10月29日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽①					
5	11月5日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽②					
6	11月12日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽③					
7	11月19日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽④					
8	11月26日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック①					
9	12月3日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック②					
10	1月21日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック③					
11	1月28日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
12	2月4日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
13	2月18日	実技試験、個々のボーカルテクニックを再確認する					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習Ⅳ		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		バックিং&ソロプレイ					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるメロディープレイ					
2	10月15日	AG・EGメカニカルトレーニング/インプロビゼーション考					
3	10月22日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるバックিং&ソロワーク					
4	10月29日	AG・EGメカニカルトレーニング/ボルトネック奏法					
5	11月5日	AG・EGメカニカルトレーニング/オルターヴ奏法					
6	11月12日	AG・EGメカニカルトレーニング/エフェクター&ケーブル考・実践					
7	11月19日	AG・EGメカニカルトレーニング/トーンメイキング<AMP・EF>					
8	11月26日	AG・EGメカニカルトレーニング/与えられたリズムパターンでのソロワーク					
9	12月3日	AG・EGメカニカルトレーニング/メロディフェイクからのソロワーク					
10	1月21日	AG・EGメカニカルトレーニング/ヒアリングソロセッション					
11	1月28日	AG・EGメカニカルトレーニング/スタンダードプレイとミスマッチプレイ					
12	2月4日	AG・EGメカニカルトレーニング/主要テクニック仕上<チョーキング・ヴィブラート>					
13	2月18日	AG・EGメカニカルトレーニング/独創的発想実践					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習Ⅳ		担当講師		木村 圭子	
講師実務経験		プロベシスト・音楽スクール講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		多種多様な演奏スタイルとグルーヴの習得と、より高度なテクニックの習得					
8期		習得した知識・演奏スキルを応用して、自分ならではのベースラインメイキングができる					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	課題曲 Jazz I ウッドベース walkingbassについて					
2	10月15日	課題曲 Jazz II フレットレスベース ハーモニクスについて					
3	10月22日	課題曲 Bossa & Samba ブラジル音楽について コードプレイ/ベースアンサンブル					
4	10月29日	課題曲 Reggae Reggaeグルーヴとパームミュート					
5	11月5日	SlapⅢ 応用バリエーション ポリリズムについて					
6	11月12日	SlapⅣ 応用バリエーション 複雑なサムピング & プルコンビネーション					
7	11月19日	アドリブについて I					
8	11月26日	アドリブについて II					
9	12月3日	課題曲 I Rock ベースラインメイキング					
10	1月21日	課題曲 II Pops ベースラインメイキング					
11	1月28日	課題曲Ⅲ Ballade ベースラインメイキング					
12	2月4日	課題曲Ⅳ R&B Slap ベースラインメイキング					
13	2月18日	実技修得度試験・まとめ					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		読譜・リズムトレーニング・フィンガリングトレーニングは毎レッスン実施					
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習Ⅳ		担当講師		田森 正行	
講師実務経験		音楽家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		ジャズにおけるリズムパターン、フィルインを修得する。変拍子を修得する。					
8期		リニアパターンを使った高度な演奏力を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	シンバルレガートの修得と、レガート中の左手のバリエーションの練習					
2	10月15日	レガート中の右足のバリエーションの練習					
3	10月22日	ジャズにおいてよく使われるフィルインと高度なフィルイン					
4	10月29日	ジャズの演奏形態を体験する。1コーラスの概念を修得する					
5	11月5日	スタンダードジャズの実演					
6	11月12日	変拍子のパターンの練習					
7	11月19日	変拍子の曲中にフィルインを入れる練習					
8	11月26日	変拍子の曲の実演					
9	12月3日	リニアパターンを用いたリズムパターン					
10	1月21日	リニアパターンを用いたフィルイン					
11	1月28日	リニアパターンを多用した曲の実演					
12	2月4日	ドラムソロの考え方					
13	2月18日	1年間のまとめ テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽史		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		1930年代以降のアメリカ・ポピュラー音楽史を学び現代を知る					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	日本のポップスはどこから来たのか					
2	10月15日	レコードが安定普及されはじめた1930年代について					
3	10月22日	1940年代～					
4	10月29日	1950年代～ ロック誕生～					
5	11月5日	1960年代～					
6	11月12日	1970年代～					
7	11月19日	1980年代～					
8	11月26日	1990年以降					
9	12月3日	ポピュラー音楽を支えてきた楽器について(Gt・Ba)					
10	1月21日	ポピュラー音楽を支えてきた鍵盤楽器について					
11	1月28日	ポピュラー音楽を支えてきたマイクロフォンについて					
12	2月4日	ポピュラー音楽史に残る発明家・レスポール氏					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		音楽ビジネス		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家歴37年・JASRAC・MPN個人会員					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		音楽産業を学び、自己の立ち位置を理解する					
8期		著作権法から音楽家としての権利を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	音楽産業からみる音楽の仕事					
2	10月15日	レコード会社について<メジャー・ミニメジャー・インディーズ>					
3	10月22日	プロダクションについて					
4	10月29日	著作権について<印税など>					
5	11月5日	音楽出版会社について					
6	11月12日	音楽家としての契約について					
7	11月19日	メスメディアについて					
8	11月26日	プロへの道のり～事例					
9	12月3日	ライブハウス考					
10	1月21日	オーディションと称する落とし穴について					
11	1月28日	音楽制作の現状					
12	2月4日	プロフェッショナルの心構え					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		聴音		担当講師	松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト				
対象学年	2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間	7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標				
7期		音程を覚えて聞き取ることを修得する。				
8期		実際の曲を聞き取り、実践的なスキルを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月8日	授業ガイダンス・前期の復習(リズム・短音小テスト)				
2	10月15日	簡単な旋律聴音①(8小節聞き取り全音符)				
3	10月22日	簡単な旋律聴音②(8小節聞き取り2分音符)				
4	10月29日	簡単な旋律聴音③(8小節聞き取り4分音符)				
5	11月5日	簡単な旋律聴音④(8小節聞き取り8分音符)				
6	11月12日	簡単な旋律聴音⑤(8小節聞き取り様々な音符)				
7	11月19日	曲を聞いてメロディを聞き取る①サビ				
8	11月26日	曲を聞いてメロディを聞き取る②サビ				
9	12月3日	曲を聞いてメロディを聞き取る③サビ				
10	1月21日	曲を聞いてメロディを聞き取る④コード付け				
11	1月28日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑤コード付け				
12	2月4日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑥コード付け				
13	2月18日	試験対策				
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		Key実習		担当講師		松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		ピアノの構造について学び、連弾曲や弾き語りなど様々な曲に挑戦する。					
8期		自由曲を用いて、ピアノの技術を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	前期の復習(基礎練習ハノン・スケール・カデンツ)					
2	10月16日	ハノン・連弾曲①					
3	10月23日	ハノン・連弾曲②					
4	10月30日	ハノン・連弾曲③					
5	11月6日	実技試験(連弾)					
6	11月13日	ピアノについて(座学・教室で行う)					
7	11月20日	ハノン・弾き語り①					
8	11月27日	ハノン・弾き語り②					
9	12月4日	ハノン・弾き語り③					
10	1月22日	ハノン・自由曲①					
11	1月29日	ハノン・自由曲②					
12	2月5日	ハノン・自由曲③					
13	2月12日	ハノン・自由曲④					
14	2月19日	実技試験					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		アンサンブルⅣ		担当講師		曾山、木村、田森(正)、田森(仁)、水口、松並	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		405 分
期		修 得 目 標					
7期		より魅力的な楽曲作りとより魅力的な表現。					
8期		卒業ライブに向けての楽曲制作とスキルアップ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日/6日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
2	10月12日/13日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
3	10月19日/20日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
4	10月26日/27日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
5	11月2日/9日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
6	11月10日/16日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
7	11月17日/24日	プロミュージシャンセミナーに向けて					
8	11月30日/ 12月1日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル①					
9	12月7日/8日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル②					
10	1月18日/19日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル③					
11	1月25日/26日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル④					
12	2月1日/2日	卒業ライブに向けた楽曲の制作 バンドアンサンブル⑤					
13	2月8日/9日	卒業ライブに向けた最終チェック					
14	2月15日/16日	卒業ライブに向けた最終チェック					
評価方法		実技習得度(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		126時間中43時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽理論Ⅱ			担当講師		谷津 祐子			
講師実務経験		大学非常勤講師								
対象学年		2	学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義		
期 間		7期・8期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135	分
期		修 得 目 標								
7期		これまで習得した知識を自分の意図する音楽作りに活用できる力を習得する								
8期		作曲・編曲の実践力を高め、柔軟に応用できる力を習得する								
回数	日程	【授 業 計 画】								
1	10月6日	授業ガイダンス								
2	10月13日	理論を活用したアレンジ法1								
3	10月20日	上記課題の記譜および別アレンジ								
4	10月27日	理論を活用したアレンジ法2								
5	11月10日	上記課題の記譜および別アレンジ								
6	11月17日	理論を活用したアレンジ法3								
7	11月24日	上記課題の記譜および別アレンジ								
8	12月1日	理論を活用したアレンジ法4								
9	12月8日	上記課題の記譜および別アレンジ								
10	1月19日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-1								
11	1月26日	総合的な作成・アレンジ・記譜1-2								
12	2月2日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-1								
13	2月9日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-2								
14	2月16日	総合的な作成・アレンジ・記譜2-3								
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)								
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)								
テキスト										
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)								

科目名		DTMIV		担当講師		谷津 裕子	
講師実務経験		大学非常勤講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像やストーリー等他分野との関連や、時間制限などを意識した楽曲制作ができる力を習得する					
8期		様々な場面、状況に対応して総合的な楽曲制作ができる力を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	音楽と他分野との関連・音楽のもたらす効果					
3	10月21日	テーマ・制限に沿った制作 1					
4	10月28日	テーマ・制限に沿った制作 1					
5	11月4日	テーマ・制限に沿った制作 2					
6	11月11日	テーマ・制限に沿った制作 2					
7	11月18日	テーマ・制限に沿った制作 3					
8	11月25日	テーマ・制限に沿った制作 3					
9	12月2日	テーマ・制限に沿った制作 4					
10	1月20日	テーマ・制限に沿った制作 4					
11	1月27日	テーマ・制限に沿った制作 4					
12	2月3日	テーマ・制限に沿った制作 5					
13	2月10日	テーマ・制限に沿った制作 5					
14	2月17日	テーマ・制限に沿った制作 5					
評価方法		実技習得度(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズムⅡ		担当講師		神田 直樹	
講師実務経験		音楽教室、通信制高等学校勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		音符によるリズムの理解を習得。					
8期		ジャンルごとによるリズムを習得					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	3連系の種類について					
3	10月21日	連符の種類について					
4	10月28日	変拍子について					
5	11月4日	16分のウラについて					
6	11月11日	キメとブレイクについて					
7	11月18日	呼吸とリズムについて					
8	11月25日	ビートのある音楽について					
9	12月2日	世界のリズムについて①					
10	1月20日	世界のリズムについて②					
11	1月27日	世界のリズムについて③					
12	2月3日	ポリリズムについて					
13	2月10日	筆記試験対策授業					
14	2月17日	実技試験					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習Ⅳ		担当講師		田森 仁子	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		2 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		オリジナル曲の充実と共に、洋楽を歌うことを修得する。					
8期		卒業ライブに向けてオリジナル曲のライブパフォーマンスとヴォーカルテクニックを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
2	10月15日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
3	10月22日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク					
4	10月29日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽①					
5	11月5日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽②					
6	11月12日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽③					
7	11月19日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク 洋楽④					
8	11月26日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック①					
9	12月3日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック②					
10	1月21日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ヴォーカルテクニック③					
11	1月28日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
12	2月4日	トータルトレーニング、オリジナル曲メイク ステージング					
13	2月18日	実技試験、個々のボーカルテクニックを再確認する					
14							
15							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習Ⅳ		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		バックিং&ソロプレイ					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるメロディープレイ					
2	10月15日	AG・EGメカニカルトレーニング/インプロビゼーション考					
3	10月22日	AG・EGメカニカルトレーニング/EX資料によるバックিং&ソロワーク					
4	10月29日	AG・EGメカニカルトレーニング/ボルトネック奏法					
5	11月5日	AG・EGメカニカルトレーニング/オルターヴ奏法					
6	11月12日	AG・EGメカニカルトレーニング/エフェクター&ケーブル考・実践					
7	11月19日	AG・EGメカニカルトレーニング/トーンメイキング<AMP・EF>					
8	11月26日	AG・EGメカニカルトレーニング/与えられたリズムパターンでのソロワーク					
9	12月3日	AG・EGメカニカルトレーニング/メロディフェイクからのソロワーク					
10	1月21日	AG・EGメカニカルトレーニング/ヒアリングソロセッション					
11	1月28日	AG・EGメカニカルトレーニング/スタンダードプレイとミスマッチプレイ					
12	2月4日	AG・EGメカニカルトレーニング/主要テクニック仕上<チョーキング・ヴィブラート>					
13	2月18日	AG・EGメカニカルトレーニング/独創的発想実践					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習Ⅳ		担当講師	木村 圭子		
講師実務経験		プロベシスト・音楽スクール講師					
対象学年		2 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		多種多様な演奏スタイルとグルーヴの習得と、より高度なテクニックの習得					
8期		習得した知識・演奏スキルを応用して、自分ならではのベースラインメイキングができる					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	課題曲 Jazz I ウッドベース walkingbassについて					
2	10月15日	課題曲 Jazz II フレットレスベース ハーモニクスについて					
3	10月22日	課題曲 Bossa & Samba ブラジル音楽について コードプレイ/ベースアンサンブル					
4	10月29日	課題曲 Reggae Reggaeグルーヴとパームミュート					
5	11月5日	SlapⅢ 応用バリエーション ポリリズムについて					
6	11月12日	SlapⅣ 応用バリエーション 複雑なサムピング & プルコンビネーション					
7	11月19日	アドリブについて I					
8	11月26日	アドリブについて II					
9	12月3日	課題曲 I Rock ベースラインメイキング					
10	1月21日	課題曲 II Pops ベースラインメイキング					
11	1月28日	課題曲Ⅲ Ballade ベースラインメイキング					
12	2月4日	課題曲Ⅳ R&B Slap ベースラインメイキング					
13	2月18日	実技修得度試験・まとめ					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		読譜・リズムトレーニング・フィンガリングトレーニングは毎レッスン実施					
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習Ⅳ		担当講師		田森 正行	
講師実務経験		音楽家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		ジャズにおけるリズムパターン、フィルインを修得する。変拍子を修得する。					
8期		リニアパターンを使った高度な演奏力を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	シンバルレガートの修得と、レガート中の左手のバリエーションの練習					
2	10月15日	レガート中の右足のバリエーションの練習					
3	10月22日	ジャズにおいてよく使われるフィルインと高度なフィルイン					
4	10月29日	ジャズの演奏形態を体験する。1コーラスの概念を修得する					
5	11月5日	スタンダードジャズの実演					
6	11月12日	変拍子のパターンの練習					
7	11月19日	変拍子の曲中にフィルインを入れる練習					
8	11月26日	変拍子の曲の実演					
9	12月3日	リニアパターンを用いたリズムパターン					
10	1月21日	リニアパターンを用いたフィルイン					
11	1月28日	リニアパターンを多用した曲の実演					
12	2月4日	ドラムソロの考え方					
13	2月18日	1年間のまとめ テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽史		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		1930年代以降のアメリカ・ポピュラー音楽史を学び現代を知る					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	日本のポップスはどこから来たのか					
2	10月15日	レコードが安定普及されはじめた1930年代について					
3	10月22日	1940年代～					
4	10月29日	1950年代～ ロック誕生～					
5	11月5日	1960年代～					
6	11月12日	1970年代～					
7	11月19日	1980年代～					
8	11月26日	1990年以降					
9	12月3日	ポピュラー音楽を支えてきた楽器について(Gt・Ba)					
10	1月21日	ポピュラー音楽を支えてきた鍵盤楽器について					
11	1月28日	ポピュラー音楽を支えてきたマイクロフォンについて					
12	2月4日	ポピュラー音楽史に残る発明家・レスポール氏					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽ビジネス		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家歴37年・JASRAC・MPN個人会員					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		音楽産業を学び、自己の立ち位置を理解する					
8期		著作権法から音楽家としての権利を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	音楽産業からみる音楽の仕事					
2	10月15日	レコード会社について<メジャー・ミニメジャー・インディーズ>					
3	10月22日	プロダクションについて					
4	10月29日	著作権について<印税など>					
5	11月5日	音楽出版会社について					
6	11月12日	音楽家としての契約について					
7	11月19日	メスメディアについて					
8	11月26日	プロへの道のり～事例					
9	12月3日	ライブハウス考					
10	1月21日	オーディションと称する落とし穴について					
11	1月28日	音楽制作の現状					
12	2月4日	プロフェッショナルの心構え					
13	2月18日	まとめ・質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		聴音		担当講師	松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト				
対象学年	2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	講義
期 間	7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標				
7期		音程を覚えて聞き取ることを修得する。				
8期		実際の曲を聞き取り、実践的なスキルを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月8日	授業ガイダンス・前期の復習(リズム・短音小テスト)				
2	10月15日	簡単な旋律聴音①(8小節聞き取り全音符)				
3	10月22日	簡単な旋律聴音②(8小節聞き取り2分音符)				
4	10月29日	簡単な旋律聴音③(8小節聞き取り4分音符)				
5	11月5日	簡単な旋律聴音④(8小節聞き取り8分音符)				
6	11月12日	簡単な旋律聴音⑤(8小節聞き取り様々な音符)				
7	11月19日	曲を聞いてメロディを聞き取る①サビ				
8	11月26日	曲を聞いてメロディを聞き取る②サビ				
9	12月3日	曲を聞いてメロディを聞き取る③サビ				
10	1月21日	曲を聞いてメロディを聞き取る④コード付け				
11	1月28日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑤コード付け				
12	2月4日	曲を聞いてメロディを聞き取る⑥コード付け				
13	2月18日	試験対策				
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		13時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		Key実習		担当講師		松並 姿帆	
講師実務経験		ピアニスト					
対象学年		2 学年	対象専攻	ミュージシャンコース 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		ピアノの構造について学び、連弾曲や弾き語りなど様々な曲に挑戦する。					
8期		自由曲を用いて、ピアノの技術を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	前期の復習(基礎練習ハノン・スケール・カデンツ)					
2	10月16日	ハノン・連弾曲①					
3	10月23日	ハノン・連弾曲②					
4	10月30日	ハノン・連弾曲③					
5	11月6日	実技試験(連弾)					
6	11月13日	ピアノについて(座学・教室で行う)					
7	11月20日	ハノン・弾き語り①					
8	11月27日	ハノン・弾き語り②					
9	12月4日	ハノン・弾き語り③					
10	1月22日	ハノン・自由曲①					
11	1月29日	ハノン・自由曲②					
12	2月5日	ハノン・自由曲③					
13	2月12日	ハノン・自由曲④					
14	2月19日	実技試験					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(照明)		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組、B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台照明の基本について					
8期		4Fホールのシステムと操作卓について					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	照明機材やケーブルについて					
2	10月13日	機材の仕込み方について(点灯するまでの仕組み)					
3	10月20日	配線ケーブルや変換ケーブルを使用する仕込みについて					
4	10月27日	カラーフィルターやフォーカスについて					
5	11月10日	フロア仕込みについて					
6	11月17日	フォーカスの名称について					
7	11月24日	操作卓について					
8	12月1日	ケージの強弱や明りの組み合わせについて					
9	12月8日	シーンづくりについて					
10	1月19日	仕込み①					
11	1月26日	仕込み②					
12	2月2日	仕込み③					
13	2月9日	実技テスト(予定)					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(PA)		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務				
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者	授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期		修 得 目 標				
7期		PAの機材、仕事内容を理解し基本的な取り扱いができるようになる				
8期		簡易PAシステムの設置 & オペレートを理解する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	オリエンテーション、ケーブル巻き				
2	10月13日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い				
3	10月20日	PA機材の名称、取り扱い等を理解				
4	10月27日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
5	11月10日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
6	11月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)				
7	11月24日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)				
8	12月1日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。				
9	12月8日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは				
10	1月19日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習				
11	1月26日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験				
12	2月2日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習				
13	2月9日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験				
14	2月16日	定期試験対策問題				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		選択(動画制作)		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像作品の企画、撮影、編集について学ぶ					
8期		与えられたテーマを映像で表現する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	カメラについて(設定やカメラワーク)					
3	10月20日	Premiereによるノンリニア編集について					
4	10月27日	映像の構成について					
5	11月3日	テーマに沿った映像制作Ⅰ①(企画)					
6	11月10日	テーマに沿った映像制作Ⅰ②(撮影)					
7	11月17日	テーマに沿った映像制作Ⅰ③(編集、カラーコレクション)					
8	11月24日	テーマに沿った映像制作Ⅰ④(テロップ、MA、完成)					
9	12月1日	テーマに沿った映像制作Ⅱ①(企画)					
10	12月15日	テーマに沿った映像制作Ⅱ②(撮影)					
11	1月19日	テーマに沿った映像制作Ⅱ③(編集、カラーコレクション)					
12	1月26日	テーマに沿った映像制作Ⅱ④(テロップ、MA、完成)					
13	2月2日	完成作品の試写、ディスカッション					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(REC)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		スタジオ録音機材の概要についての知識を修得する。					
8期		録音現場の基本作業を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	スタジオ内部システムの概要					
2	10月13日	調整卓の基本操作とマイクロフォンについて					
3	10月20日	外部エフェクタの概要(ダイナミック系)					
4	10月27日	外部エフェクタの概要(センドリターン系)					
5	11月10日	ProToolsの基本操作について					
6	11月17日	ブース内でのマイクセッティングについて					
7	11月24日	ブースからコントロールルームまでの信号の流れについて					
8	12月1日	録音実践1(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
9	12月8日	録音実践2(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
10	1月19日	録音実践3(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
11	1月26日	MIX実践1(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
12	2月2日	MIX実践2(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
13	2月9日	MIX実践3(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(カラーコーディネイト)		担当講師		木村 真祐美	
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の基礎知識を修得する。色彩を身近に感じ、楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
8期		色に関する感性を磨き、自分の似合う色を発見し相手に与える印象を高め、ビジネスシーンで色彩活用ができることを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス 色の働きと色の見える仕組みについて					
2	10月13日	色彩基礎知識について					
3	10月20日	色の感情作用、知覚的効果について					
4	10月27日	色彩調和(配色テクニック)について					
5	11月10日	色とイメージの関係について①					
6	11月17日	色とイメージの関係について②					
7	11月24日	カラーマーケティングについて					
8	12月1日	パーソナルカラー(似合う色)について①					
9	12月8日	パーソナルカラー(似合う色)について②					
10	1月19日	カラーセラピー(色彩心理)について					
11	1月26日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
12	2月2日	ユニバーサルカラー(デザイン)について					
13	2月9日	色彩コミュニケーションについて					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		社会人に必要なビジネスマナーを身に付ける。					
8期		社会人に必要なビジネスマナーを修得し、企業研修で実践する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	新入社員の心得					
2	10月16日	社会人としての身だしなみ、自己管理について					
3	10月23日	仕事の進め方について					
4	10月30日	職場でのコミュニケーション講座 ※特別講師					
5	11月6日	電話応対について①					
6	11月13日	電話応対について②(実践)					
7	11月20日	名刺交換おさらい(実践)					
8	11月27日	OB講義 ※OB来校					
9	12月4日	来客へのマナー					
10	1月22日	お茶の入れ方					
11	1月29日	郵便の種類、取扱いについて					
12	2月5日	テーブルマナーについて					
13	2月12日	ビジネス文書					
14	2月19日	仕事の目標設定					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
8期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方①					
2	10月16日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方②					
3	10月23日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方③					
4	10月30日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方④					
5	11月6日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑤					
6	11月13日	新聞の「ニュース記事」や「コラム」を取り上げ、ポイントを解説。レポート提出					
7	11月20日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑥					
8	11月27日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑦					
9	12月4日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑧					
10	1月22日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑨					
11	1月29日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑩					
12	2月5日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑪					
13	2月12日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑫					
14	2月19日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		映像概論		担当講師		平野 雄司	
講師実務経験		番組制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	45 分	
期		修 得 目 標					
7期		様々な分野を担当する立場から映像を理解する。					
8期		実際に様々な作品を見て改めて映像とはどういうものかを学ぶ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス					
2	10月15日	テレビ、映画照明と舞台照明の違いについて					
3	10月22日	映像制作する際の仕事のスタート地点はどこにあるのか					
4	10月29日	情報系番組の映像について					
5	11月5日	テレビの音楽番組の映像について					
6	11月12日	舞台の映像について					
7	11月19日	テレビドラマの映像について					
8	11月26日	時代劇と現代劇の映像について					
9	12月3日	映像に関わる季節や時間について					
10	12月17日	プロモーションビデオの映像について					
11	1月21日	記録映像、学術映像、WEBなどの映像について					
12	1月28日	CM作品の映像について					
13	2月4日	演出されたの映像について					
14	2月18日	授業のまとめと定期試験について					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		著作権論		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		音楽業界に関わる上で必要な音楽業界のしくみや流通戦略について理解する。					
8期		著作権収入及び著作権法での問題点を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス					
2	10月15日	音楽業界の代表的な職種及び不況音楽業界について					
3	10月22日	メジャーレーベル及びアーティスト活動の種類について					
4	10月29日	音楽創造サイクル及び音楽CDが店頭に並ぶまでについて					
5	11月5日	音楽業界の仕組み及びCDが出来るまでの詳細について					
6	11月12日	アーティストの発掘及びCDが出来るまでの詳細について					
7	11月19日	著作隣接権及び著作権用語について					
8	11月26日	著作権と知的財産権、著作権と音楽出版社について					
9	12月3日	アーティストのギャラ構造及び著作権問題(コピー・ネット・その他)について					
10	1月21日	アーティストの著作権収入計算の仕方について①					
11	1月28日	アーティストの著作権収入計算の仕方について②					
12	2月4日	著作権収入小テスト					
13	2月18日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		26時間中13時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		イベント制作Ⅳ①		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・イベント制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		様々な要件のイベントに対し、情報収集力と企画力を持って対応できるスキルを養う。					
8期		音響・照明・その他のスタッフと強調し、来場者目線で実施案を制作するスキルと、現場での判断能力を養う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日	オリエンテーション・グループ分け・ブレインストーミング					
2	10月12日	企画制作：案だし・演出案・広報案					
3	10月19日	企画制作：案だし・演出案・広報案					
4	10月26日	企画書制作・実施案制作：スケジュール・演出・備品					
5	11月2日	企画書制作・実施案制作：スケジュール・演出・備品					
6	11月9日	企画書制作・実施案制作：音響・照明を含めたグループミーティング					
7	11月16日	実施案修正・調整：出演者・セットリスト					
8	11月30日	実施案修正・調整：出演者・セットリスト					
9	12月7日	実施案修正・調整：MC原稿・広報実施					
10	1月18日	最終チェック：音響・照明を含めたグループミーティング					
11	1月25日	Aグループ本番					
12	2月1日	Bグループ本番					
13	2月8日	Cグループ本番					
14	2月15日	グループごと反省会					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		90時間中31時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		イベント制作Ⅳ②		担当講師	横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか				
対象学年	2 学年	対象専攻	コンサート・イベント制作専攻		授業形態	講義
期 間	7期・8期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標				
3期		企画案が決定している前提で、実施案を制作する基礎を学ぶ。				
4期		企画から実施案作成までをグループで行い、ディレクター業務を極力実際の現場に近い形で体験的に学ぶ。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月7日	企画制作:案だし・演出案・広報案				
2	10月14日	企画制作:案だし・演出案・広報案				
3	10月21日	企画書制作・実施案制作:スケジュール・演出・備品				
4	10月28日	企画書制作・実施案制作:スケジュール・演出・備品				
5	11月4日	企画書制作・実施案制作:スケジュール・演出・備品				
6	11月11日	実施案修正・調整:出演者・セットリスト				
7	11月18日	実施案修正・調整:出演者・セットリスト				
8	11月25日	実施案修正・調整:出演者・セットリスト				
9	12月2日	実施案修正・調整:MC原稿・広報実施				
10	1月20日	最終チェック:全行程				
11	1月27日	最終チェック／Aグループ報告書制作				
12	2月3日	最終チェック／Bグループ報告書制作				
13	2月10日	最終チェック／Cグループ報告書制作				
14	2月17日	全体反省会をもとにした対処法・解決法のまとめ				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		30時間中11時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		DTP実習Ⅳ		担当講師	金田一 樹生	
講師実務経験		広告制作会社に勤務後独立				
対象学年	2 学年	対象専攻	コンサート・イベント制作専攻		授業形態	講義
期 間	7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
7期		デザインに至ったまでのプロセスを人に説明できる力をつける				
8期		広告制作の技術向上と既存のデザインからプロセスを考えられるようになる				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	例題に沿ったデザインの制作①				
2	10月13日	制作				
3	10月20日	プレゼンテーション				
4	10月27日	デザインを比較して訴求内容を考える①				
5	11月10日	例題に沿ったデザインの制作②				
6	11月17日	制作				
7	11月24日	プレゼンテーション				
8	12月1日	デザインを比較して訴求内容を考える②				
9	12月8日	例題に沿ったデザインの制作③				
10	1月19日	制作				
11	1月26日	プレゼンテーション				
12	2月2日	既存データの修正・加工①				
13	2月9日	既存データの修正・加工②				
14	2月16日	2年間の総復習				
評価方法		実技習得度(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		CAD実習Ⅲ		担当講師	佐藤 直子	
講師実務経験		建築士、インテリアコーディネーター				
対象学年	2 学年	対象専攻	コンサートイベント制作専攻		授業形態	実習
期 間	7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
7期		実践的なソフトの使用方法を修得する				
8期		テーマに沿った図面の作成技術を修得する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月7日	授業ガイダンス				
2	10月14日	オリジナル図面製作について(間取り)				
3	10月21日	オリジナル図面製作(課題)				
4	10月28日	オリジナル図面製作(課題)				
5	11月4日	3Dについて(課題)				
6	11月11日	3Dについて(課題)				
7	11月18日	企画書.提案書.プレゼンについて				
8	11月25日	オリジナル店舗製作(企画書)				
9	12月2日	オリジナル店舗図面製作(課題)				
10	1月20日	オリジナル店舗図面製作(課題)				
11	1月27日	オリジナル店舗図面製作(プレゼンテーション)				
12	2月3日	リニューアル提案書(図面)について				
13	2月10日	リニューアル提案書(課題)				
14	2月17日	リニューアル提案書(プレゼンテーション)				
評価方法		実技修得度(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		アーティストプロモーションⅢ		担当講師		齋藤 晶子	
講師実務経験		イベンター・レコード会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・イベント制作専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		コンサート・イベントの仕組みを知り、アーティストにあったプロモーションを組めるようになる					
8期		アーティストや情報を扱う心構えを身につける					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業内容説明					
2	10月14日	コンサートプロモーター／コンサート制作会社とは					
3	10月21日	コンサート(ライブ)・インストアイベントの仕組み					
4	10月28日	コンサートイベントを組んでみる①					
5	11月4日	コンサートイベントを組んでみる②					
6	11月11日	プロモーション・出稿・バーターの違い					
7	11月18日	組んだイベントのプロモーションを考える①					
8	11月25日	組んだイベントのプロモーションを考える②					
9	12月2日	コンサート・イベントのまとめ					
10	1月20日	アーティストのプロモーションとは					
11	1月27日	人とのコミュニケーション能力を身につける					
12	2月3日	アーティストとアーティストを支える側の信頼関係					
13	2月10日	情報を扱う仕事につく心構え					
14	2月17日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		15回中6回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ホームページ制作		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・イベント制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		WEBサイトの基本と仕組みを学ぶ					
8期		WEBサイト制作を行う					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日	授業ガイダンス WEBサイトの基本と仕組みについて					
2	10月12日	WEBサイトの基本と制作 HTMLタグを覚える① 例題を使ったホームページ制作①					
3	10月19日	WEBサイトの基本と制作 HTMLタグを覚える② 例題を使ったホームページ制作②					
4	10月26日	WEBサイトの基本と制作 HTMLタグを覚える③ 例題を使ったホームページ制作③					
5	11月2日	WEBサイトの基本と制作 HTMLタグを覚える④ 例題を使ったホームページ制作④					
6	11月9日	WEBサイトの基本と制作 HTMLタグを覚える⑤ 例題を使ったホームページ制作⑤					
7	11月16日	WEBサイトの基本と制作 HTMLタグを覚える⑥ 例題を使ったホームページ制作⑥					
8	11月30日	WEBサイトの基本と制作 スタイルシートを覚える① 例題を使ったホームページ制作⑦					
9	12月7日	WEBサイトの基本と制作 スタイルシートを覚える② 例題を使ったホームページ制作⑧					
10	1月18日	卒業制作:各自WEBサイト制作①					
11	1月25日	卒業制作:各自WEBサイト制作②					
12	2月1日	卒業制作:各自WEBサイト制作③					
13	2月8日	卒業制作:各自WEBサイト制作④					
14	2月15日	授業のまとめ					
評価方法		実技習熟度(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で卒業できません(留年となります)					

科目名		選択(照明)		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組、B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台照明の基本について					
8期		4Fホールのシステムと操作卓について					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	照明機材やケーブルについて					
2	10月13日	機材の仕込み方について(点灯するまでの仕組み)					
3	10月20日	配線ケーブルや変換ケーブルを使用する仕込みについて					
4	10月27日	カラーフィルターやフォーカスについて					
5	11月10日	フロア仕込みについて					
6	11月17日	フォーカスの名称について					
7	11月24日	操作卓について					
8	12月1日	ケージの強弱や明りの組み合わせについて					
9	12月8日	シーンづくりについて					
10	1月19日	仕込み①					
11	1月26日	仕込み②					
12	2月2日	仕込み③					
13	2月9日	実技テスト(予定)					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(PA)		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務				
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者	授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期		修 得 目 標				
7期		PAの機材、仕事内容を理解し基本的な取り扱いができるようになる				
8期		簡易PAシステムの設置 & オペレートを理解する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	オリエンテーション、ケーブル巻き				
2	10月13日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い				
3	10月20日	PA機材の名称、取り扱い等を理解				
4	10月27日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
5	11月10日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
6	11月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)				
7	11月24日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)				
8	12月1日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。				
9	12月8日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは				
10	1月19日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習				
11	1月26日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験				
12	2月2日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習				
13	2月9日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験				
14	2月16日	定期試験対策問題				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		選択(動画制作)		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像作品の企画、撮影、編集について学ぶ					
8期		与えられたテーマを映像で表現する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	カメラについて(設定やカメラワーク)					
3	10月20日	Premiereによるノンリニア編集について					
4	10月27日	映像の構成について					
5	11月3日	テーマに沿った映像制作Ⅰ①(企画)					
6	11月10日	テーマに沿った映像制作Ⅰ②(撮影)					
7	11月17日	テーマに沿った映像制作Ⅰ③(編集、カラーコレクション)					
8	11月24日	テーマに沿った映像制作Ⅰ④(テロップ、MA、完成)					
9	12月1日	テーマに沿った映像制作Ⅱ①(企画)					
10	12月15日	テーマに沿った映像制作Ⅱ②(撮影)					
11	1月19日	テーマに沿った映像制作Ⅱ③(編集、カラーコレクション)					
12	1月26日	テーマに沿った映像制作Ⅱ④(テロップ、MA、完成)					
13	2月2日	完成作品の試写、ディスカッション					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(REC)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		スタジオ録音機材の概要についての知識を修得する。					
8期		録音現場の基本作業を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	スタジオ内部システムの概要					
2	10月13日	調整卓の基本操作とマイクロフォンについて					
3	10月20日	外部エフェクタの概要(ダイナミック系)					
4	10月27日	外部エフェクタの概要(センドリターン系)					
5	11月10日	ProToolsの基本操作について					
6	11月17日	ブース内でのマイクセッティングについて					
7	11月24日	ブースからコントロールルームまでの信号の流れについて					
8	12月1日	録音実践1(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
9	12月8日	録音実践2(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
10	1月19日	録音実践3(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
11	1月26日	MIX実践1(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
12	2月2日	MIX実践2(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
13	2月9日	MIX実践3(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(カラーコーディネイト)		担当講師		木村 真祐美	
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の基礎知識を修得する。色彩を身近に感じ、楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
8期		色に関する感性を磨き、自分の似合う色を発見し相手に与える印象を高め、ビジネスシーンで色彩活用ができることを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス 色の働きと色の見える仕組みについて					
2	10月13日	色彩基礎知識について					
3	10月20日	色の感情作用、知覚的効果について					
4	10月27日	色彩調和(配色テクニック)について					
5	11月10日	色とイメージの関係について①					
6	11月17日	色とイメージの関係について②					
7	11月24日	カラーマーケティングについて					
8	12月1日	パーソナルカラー(似合う色)について①					
9	12月8日	パーソナルカラー(似合う色)について②					
10	1月19日	カラーセラピー(色彩心理)について					
11	1月26日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
12	2月2日	ユニバーサルカラー(デザイン)について					
13	2月9日	色彩コミュニケーションについて					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		社会人に必要なビジネスマナーを身に付ける。					
8期		社会人に必要なビジネスマナーを修得し、企業研修で実践する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	新入社員の心得					
2	10月16日	社会人としての身だしなみ、自己管理について					
3	10月23日	仕事の進め方について					
4	10月30日	職場でのコミュニケーション講座 ※特別講師					
5	11月6日	電話応対について①					
6	11月13日	電話応対について②(実践)					
7	11月20日	名刺交換おさらい(実践)					
8	11月27日	OB講義 ※OB来校					
9	12月4日	来客へのマナー					
10	1月22日	お茶の入れ方					
11	1月29日	郵便の種類、取扱いについて					
12	2月5日	テーブルマナーについて					
13	2月12日	ビジネス文書					
14	2月19日	仕事の目標設定					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
8期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方①					
2	10月16日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方②					
3	10月23日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方③					
4	10月30日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方④					
5	11月6日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑤					
6	11月13日	新聞の「ニュース記事」や「コラム」を取り上げ、ポイントを解説。レポート提出					
7	11月20日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑥					
8	11月27日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑦					
9	12月4日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑧					
10	1月22日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑨					
11	1月29日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑩					
12	2月5日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑪					
13	2月12日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑫					
14	2月19日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中54回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		REC実習Ⅳ		担当講師	金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア				
対象学年	2 学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻		授業形態	実習
期 間	7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標				
7期		スタジオ録音・MIXの基本作業の知識修得				
8期		スタジオ録音・MIXの応用作業の修得				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月5日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
2	10月12日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
3	10月19日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
4	10月26日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
5	11月2日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
6	11月9日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
7	11月16日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
8	11月30日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
9	12月7日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
10	1月18日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
11	1月25日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
12	2月1日	バンドによるスタジオ録音(Keisen Basic Setによるマイクセッティング)～MIX				
13	2月8日	バンドによるスタジオ録音・MIX 応用編(マスタリング等)				
14	2月15日	定期試験対策				
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト		各回授業にてプリント配布				
注意事項		84時間中29時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		機材メンテナンスⅡ		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		実際にケーブルを作成し、断線等のトラブルに対処できるメンテナンススキルを修得する。					
8期		実際にケーブルを作成し、断線等のトラブルに対処できるメンテナンススキルを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	メンテナンスに必要な工具について					
3	10月20日	メンテナンスに必要な工具について、半田付け方法について					
4	10月27日	半田付け方法について及び半田付け練習					
5	11月10日	XLRコネクターの清掃について					
6	11月17日	XLRを使用したマイクケーブルを製作し提出する。					
7	11月24日	XLRを使用したマイクケーブルを製作し提出する。					
8	12月1日	TRS、TS、RCAコネクターの清掃について					
9	12月8日	TRS、TS、RCAコネクターを使用したケーブルを製作作成し提出する					
10	1月19日	TRS、TS、RCAコネクターを使用したケーブルを製作作成し提出する					
11	1月26日	XLRを使用した変換ケーブルの作成、修理について					
12	2月2日	XLRを使用した変換ケーブルの作成、修理について					
13	2月9日	XLRを使用した変換ケーブルを製作し提出する。					
14	2月16日	XLRを使用した変換ケーブルを製作し提出する。					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		PA基礎実習		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		実際にケーブルを作成し、断線等のトラブルに対処できるメンテナンススキルを修得する。					
8期		実際にケーブルを作成し、断線等のトラブルに対処できるメンテナンススキルを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	オリエンテーション、ケーブル巻き					
2	10月14日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い					
3	10月21日	PA機材の名称、取り扱い等を理解					
4	10月28日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解					
5	11月4日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解					
6	11月11日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)					
7	11月18日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)					
8	11月25日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。					
9	12月2日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは					
10	1月20日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習					
11	1月27日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験					
12	2月3日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習					
13	2月10日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験					
14	2月17日	定期試験対策問題					
評価方法		定期試験点数(50%)、実技習得度(50%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽概論Ⅱ		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家歴37年					
対象学年		2 学年	対象専攻	ライブ音響、スタジオレコーディング 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		実演家とエンジニア・スタッフの相互関係及びこれからの音楽産業の変化を考え、学ぶ					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	自己のコンサート・レコーディングキャリア説明					
2	10月14日	コンサート音響エンジニアとレコーディングエンジニアについて					
3	10月21日	実演家が望むレコーディングモニター環境					
4	10月28日	ステージ、スタジオでの専門的用語集					
5	11月4日	4リズム、管楽器、弦楽器のレコーディング風景					
6	11月11日	ライブハウスでの4リズム & Vo映像<ノラ・ジョーンズ>					
7	11月18日	数万人規模のジャズフェス、ライブアンダースカイ映像					
8	11月25日	ホールコンサートでの完全なるCD再現音質ライブ<パットメセニー>					
9	12月2日	TVスタジオでの完全なるCD再現音質ライブ<ステイリーダン>					
10	1月20日	ライブステージ&レコーディングスタジオ、マイクロフォン考					
11	1月27日	Apfから学ぶデジタルピアノ音質<参考映像:ミシェル・ペトルチアーニ>					
12	2月3日	アコースティックギターについて<ライブ出力・録音方法など>					
13	2月10日	実演家からみるPA・録音考(ドラム・Per・ベース)					
14	2月17日	まとめ、質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		放送音声		担当講師	種田 俊二	
講師実務経験		放送局勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	ライブ音響、スタジオレコーディング 各専攻		授業形態	講義
期 間	7期・8期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間		45 分
期	修 得 目 標					
7期	「音声」の重要性と収録方法による違いを理解する					
8期	音声機材の基礎知識を復習し修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月7日	授業ガイダンス				
2	10月14日	「音声」の重要性について				
3	10月21日	インタビューを録音する① 録り方による音の違い				
4	10月28日	インタビューを録音する② 録音のコツ				
5	11月4日	インタビューを録音する③ 録音計画				
6	11月11日	フィールドで録音する① 録り方による音の違い				
7	11月18日	フィールドで録音する② 録音のコツ1				
8	11月25日	フィールドで録音する③ 録音のコツ2				
9	12月2日	スタジオ録音の実際① ナレーション録音の手順				
10	12月16日	スタジオ録音の実際② 録音後のチェック				
11	1月20日	録音機材の基礎知識① マイクの原理と実際				
12	1月27日	録音機材の基礎知識② マイクの周波数特性				
13	2月3日	録音機材の基礎知識③ マイクの指向特性とステレオ録音				
14	2月10日	録音機材の基礎知識④ レベルメーターの種類と原理				
15	2月17日	総まとめと試験対策				
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト						
注意事項	15時間中6時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽研究			担当講師		森 良太				
講師実務経験		音響会社勤務									
対象学年		2	学年	対象専攻		B組		授業形態	講義		
期 間		7期・8期		総授業回数		14	回	1回あたりの授業時間		45	分
期		修 得 目 標									
7期		様々な音楽ジャンルとそのルーツについての知識を修得する。									
8期		実際に様々なジャンルを鑑賞し、深い知識を修得する。									
回数	日程	【授 業 計 画】									
1	10月9日	授業ガイダンス									
2	10月16日	ブラックミュージックについて①									
3	10月23日	ブラックミュージックについて②									
4	10月30日	ブラックミュージックについて③									
5	11月6日	ジャズについて									
6	11月13日	ポップスについて									
7	11月20日	ロックについて									
8	11月27日	クラシックについて									
9	12月4日	エレクトロニカについて									
10	1月22日	オルタナ、民族音楽について									
11	1月29日	ブラックミュージックの鑑賞									
12	2月5日	ジャズ、ポップス、ロックの鑑賞									
13	2月12日	クラシック、エレクトロニカ、オルタナ、民族音楽の鑑賞									
14	2月19日	定期試験対策									
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)									
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)									
テキスト		プリント配布									
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)									

科目名		MA実習Ⅳ		担当講師	田 莉子 和之		
講師実務経験		音楽・番組制作会社に勤務。 テレビ番組等、映像制作の音に携わる。					
対象学年		2 学年	対象専攻	スタジオレコーディング専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		MA作業の理解と、付随する特殊用語の習熟、及び、音声・映像・同期関係に関する知識と音声編集の作業レスポンスの向上を目標としを習得する。					
8期		MAの知識と技能を総括します。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス／MAの概要・知識について					
2	10月15日	MA作業準備 / 整音について					
3	10月22日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(1)					
4	10月29日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(2)					
5	11月5日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(3)					
6	11月12日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(4)					
7	11月19日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(5)					
8	11月26日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(6)					
9	12月3日	整音について／ミックスダウンについて(1)					
10	1月21日	整音について／ミックスダウンについて(2)					
11	1月28日	授業まとめ／実技習得度判定試験対策					
12	2月4日	実技習得度判定試験					
13	2月18日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:実技習得度判定試験の実施 *【授業計画】参照					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		78時間中27時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(照明)		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組、B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台照明の基本について					
8期		4Fホールのシステムと操作卓について					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	照明機材やケーブルについて					
2	10月13日	機材の仕込み方について(点灯するまでの仕組み)					
3	10月20日	配線ケーブルや変換ケーブルを使用する仕込みについて					
4	10月27日	カラーフィルターやフォーカスについて					
5	11月10日	フロア仕込みについて					
6	11月17日	フォーカスの名称について					
7	11月24日	操作卓について					
8	12月1日	ケージの強弱や明りの組み合わせについて					
9	12月8日	シーンづくりについて					
10	1月19日	仕込み①					
11	1月26日	仕込み②					
12	2月2日	仕込み③					
13	2月9日	実技テスト(予定)					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(PA)		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務				
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者	授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期		修 得 目 標				
7期		PAの機材、仕事内容を理解し基本的な取り扱いができるようになる				
8期		簡易PAシステムの設置 & オペレートを理解する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	オリエンテーション、ケーブル巻き				
2	10月13日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い				
3	10月20日	PA機材の名称、取り扱い等を理解				
4	10月27日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
5	11月10日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
6	11月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)				
7	11月24日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)				
8	12月1日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。				
9	12月8日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは				
10	1月19日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習				
11	1月26日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験				
12	2月2日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習				
13	2月9日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験				
14	2月16日	定期試験対策問題				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		選択(動画制作)		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像作品の企画、撮影、編集について学ぶ					
8期		与えられたテーマを映像で表現する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	カメラについて(設定やカメラワーク)					
3	10月20日	Premiereによるノンリニア編集について					
4	10月27日	映像の構成について					
5	11月3日	テーマに沿った映像制作Ⅰ①(企画)					
6	11月10日	テーマに沿った映像制作Ⅰ②(撮影)					
7	11月17日	テーマに沿った映像制作Ⅰ③(編集、カラーコレクション)					
8	11月24日	テーマに沿った映像制作Ⅰ④(テロップ、MA、完成)					
9	12月1日	テーマに沿った映像制作Ⅱ①(企画)					
10	12月15日	テーマに沿った映像制作Ⅱ②(撮影)					
11	1月19日	テーマに沿った映像制作Ⅱ③(編集、カラーコレクション)					
12	1月26日	テーマに沿った映像制作Ⅱ④(テロップ、MA、完成)					
13	2月2日	完成作品の試写、ディスカッション					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(REC)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		スタジオ録音機材の概要についての知識を修得する。					
8期		録音現場の基本作業を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	スタジオ内部システムの概要					
2	10月13日	調整卓の基本操作とマイクロフォンについて					
3	10月20日	外部エフェクタの概要(ダイナミック系)					
4	10月27日	外部エフェクタの概要(センドリターン系)					
5	11月10日	ProToolsの基本操作について					
6	11月17日	ブース内でのマイクセッティングについて					
7	11月24日	ブースからコントロールルームまでの信号の流れについて					
8	12月1日	録音実践1(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
9	12月8日	録音実践2(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
10	1月19日	録音実践3(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
11	1月26日	MIX実践1(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
12	2月2日	MIX実践2(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
13	2月9日	MIX実践3(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(カラーコーディネイト)		担当講師		木村 真祐美	
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の基礎知識を修得する。色彩を身近に感じ、楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
8期		色に関する感性を磨き、自分の似合う色を発見し相手に与える印象を高め、ビジネスシーンで色彩活用ができることを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス 色の働きと色の見える仕組みについて					
2	10月13日	色彩基礎知識について					
3	10月20日	色の感情作用、知覚的効果について					
4	10月27日	色彩調和(配色テクニック)について					
5	11月10日	色とイメージの関係について①					
6	11月17日	色とイメージの関係について②					
7	11月24日	カラーマーケティングについて					
8	12月1日	パーソナルカラー(似合う色)について①					
9	12月8日	パーソナルカラー(似合う色)について②					
10	1月19日	カラーセラピー(色彩心理)について					
11	1月26日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
12	2月2日	ユニバーサルカラー(デザイン)について					
13	2月9日	色彩コミュニケーションについて					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		社会人に必要なビジネスマナーを身に付ける。					
8期		社会人に必要なビジネスマナーを修得し、企業研修で実践する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	新入社員の心得					
2	10月16日	社会人としての身だしなみ、自己管理について					
3	10月23日	仕事の進め方について					
4	10月30日	職場でのコミュニケーション講座 ※特別講師					
5	11月6日	電話応対について①					
6	11月13日	電話応対について②(実践)					
7	11月20日	名刺交換おさらい(実践)					
8	11月27日	OB講義 ※OB来校					
9	12月4日	来客へのマナー					
10	1月22日	お茶の入れ方					
11	1月29日	郵便の種類、取扱いについて					
12	2月5日	テーブルマナーについて					
13	2月12日	ビジネス文書					
14	2月19日	仕事の目標設定					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
8期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方①					
2	10月16日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方②					
3	10月23日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方③					
4	10月30日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方④					
5	11月6日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑤					
6	11月13日	新聞の「ニュース記事」や「コラム」を取り上げ、ポイントを解説。レポート提出					
7	11月20日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑥					
8	11月27日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑦					
9	12月4日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑧					
10	1月22日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑨					
11	1月29日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑩					
12	2月5日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑪					
13	2月12日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑫					
14	2月19日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		映像概論		担当講師		平野 雄司	
講師実務経験		番組制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	45 分	
期		修 得 目 標					
7期		様々な分野を担当する立場から映像を理解する。					
8期		実際に様々な作品を見て改めて映像とはどういうものかを学ぶ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス					
2	10月15日	テレビ、映画照明と舞台照明の違いについて					
3	10月22日	映像制作する際の仕事のスタート地点はどこにあるのか					
4	10月29日	情報系番組の映像について					
5	11月5日	テレビの音楽番組の映像について					
6	11月12日	舞台の映像について					
7	11月19日	テレビドラマの映像について					
8	11月26日	時代劇と現代劇の映像について					
9	12月3日	映像に関わる季節や時間について					
10	12月17日	プロモーションビデオの映像について					
11	1月21日	記録映像、学術映像、WEBなどの映像について					
12	1月28日	CM作品の映像について					
13	2月4日	演出されたの映像について					
14	2月18日	授業のまとめと定期試験について					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		著作権論		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		音楽業界に関わる上で必要な音楽業界のしくみや流通戦略について理解する。					
8期		著作権収入及び著作権法での問題点を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス					
2	10月15日	音楽業界の代表的な職種及び不況音楽業界について					
3	10月22日	メジャーレーベル及びアーティスト活動の種類について					
4	10月29日	音楽創造サイクル及び音楽CDが店頭に並ぶまでについて					
5	11月5日	音楽業界の仕組み及びCDが出来るまでの詳細について					
6	11月12日	アーティストの発掘及びCDが出来るまでの詳細について					
7	11月19日	著作隣接権及び著作権用語について					
8	11月26日	著作権と知的財産権、著作権と音楽出版社について					
9	12月3日	アーティストのギャラ構造及び著作権問題(コピー・ネット・その他)について					
10	1月21日	アーティストの著作権収入計算の仕方について①					
11	1月28日	アーティストの著作権収入計算の仕方について②					
12	2月4日	著作権収入小テスト					
13	2月18日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		PA実習Ⅳ		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	ライブ音響専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		技術の復習、応用を身につける。プランニング、資料作成を身につける。					
8期		他セクションとの打ち合わせ、実際の本番を行う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日	授業の概要説明。実習に向けて班分け					
2	10月12日	技術の復習					
3	10月19日	技術の応用について					
4	10月26日	打ち合わせ、プランニングについて					
5	11月2日	プランに合わせた仕込み図、回線表の作成					
6	11月9日	企画会議①					
7	11月16日	企画会議②					
8	11月30日	シミュレーション①、本番に向け他セクションと修正					
9	12月7日	シミュレーション②、本番に向け他セクションと修正					
10	1月10日	シミュレーション③、本番に向け他セクションと修正					
11	1月25日	本番①、反省会					
12	2月1日	本番②、反省会					
13	2月8日	本番③、反省会					
14	2月15日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		機材メンテナンスⅡ		担当講師		田上 涼	
講師実務経験		ライブハウス勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	ライブ音響専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		各種ケーブルを作成し、断線などのトラブルの対処法を習得					
8期		学校内にある機材をメンテナンスし、倉庫などをきれいに使う習慣を作る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	メンテナンス工具について はんだ付け方法の復習					
3	10月20日	ケーブルについて①(XLRを使用したケーブルを作成)					
4	10月27日	ケーブルについて②(XLRのケーブルの修理、清掃)					
5	11月10日	ケーブルについて③(TRS、TS、RCAコネクタケーブルの作成)					
6	11月17日	ケーブルについて④(TRS、TS、RCAコネクタケーブルの修理、清掃)					
7	11月24日	ケーブルについて⑤(XLRを使用した変換ケーブル作成)					
8	12月1日	ケーブルについて⑥(XLRを使用した変換ケーブルの修理、清掃について)					
9	12月9日	ケーブルについて⑦(今まで作成したケーブルについて復習)					
10	1月19日	校内機材メンテナンス①(Kissホール)					
11	1月26日	校内機材メンテナンス②(Mスタ)					
12	2月2日	校内機材メンテナンス③(4階ホール)					
13	2月9日	校内機材メンテナンス④(305倉庫)					
14	2月16日	後期授業の復習、試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		REC基礎実習		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	ライブ音響		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		レコーディングスタジオの基礎					
8期		スタジオ録音・MIXの応用作業の修得					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	スタジオシステムの基本(PAとレコーディングの違い)					
2	10月14日	スタジオシステムの信号の流れ					
3	10月21日	インラインコンソールの概要					
4	10月28日	アウトボードの基本(コンプレッサー・リバーブなど)					
5	11月4日	録音のためのマイクアレンジ(ドラム・ベース・ギター・ヴォーカル)					
6	11月11日	マイクセッティング					
7	11月28日	ProToolsの基本設定(録音時の設定)					
8	11月25日	デモ録音(ドラム)					
9	12月2日	デモ録音(ベース)					
10	1月20日	デモ録音(ギター・アコギ)					
11	1月27日	デモ録音(ヴォーカル)					
12	2月3日	収録音源でのミックス					
13	2月10日	マスタリングの概要					
14	2月17日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽概論Ⅱ		担当講師		曾山 良一	
講師実務経験		プロギタリスト・作曲家歴37年					
対象学年		2 学年	対象専攻	ライブ音響、スタジオレコーディング 専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		実演家とエンジニア・スタッフの相互関係及びこれからの音楽産業の変化を考え、学ぶ					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	自己のコンサート・レコーディングキャリア説明					
2	10月14日	コンサート音響エンジニアとレコーディングエンジニアについて					
3	10月21日	実演家が望むレコーディングモニター環境					
4	10月28日	ステージ、スタジオでの専門的用語集					
5	11月4日	4リズム、管楽器、弦楽器のレコーディング風景					
6	11月11日	ライブハウスでの4リズム＆Vo映像<ノラ・ジョーンズ>					
7	11月18日	数万人規模のジャズフェス、ライブアンダースカイ映像					
8	11月25日	ホールコンサートでの完全なるCD再現音質ライブ<パットメセニー>					
9	12月2日	TVスタジオでの完全なるCD再現音質ライブ<ステイリーダン>					
10	1月20日	ライブステージ＆レコーディングスタジオ、マイクロフォン考					
11	1月27日	Apfから学ぶデジタルピアノ音質<参考映像:ミシェル・ペトルチアーニ>					
12	2月3日	アコースティックギターについて<ライブ出力・録音方法など>					
13	2月10日	実演家からみるPA・録音考(ドラム・Per・ベース)					
14	2月17日	まとめ、質疑応答					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		放送音声		担当講師		種田 俊二	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	ライブ音響、スタジオレコーディング 専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		「音声」の重要性と収録方法による違いを理解する					
8期		音声機材の基礎知識を復習し修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	「音声」の重要性について					
3	10月21日	インタビューを録音する① 録り方による音の違い					
4	10月28日	インタビューを録音する② 録音のコツ					
5	11月4日	インタビューを録音する③ 録音計画					
6	11月11日	フィールドで録音する① 録り方による音の違い					
7	11月18日	フィールドで録音する② 録音のコツ1					
8	11月25日	フィールドで録音する③ 録音のコツ2					
9	12月2日	スタジオ録音の実際① ナレーション録音の手順					
10	12月16日	スタジオ録音の実際② 録音後のチェック					
11	1月20日	録音機材の基礎知識① マイクの原理と実際					
12	1月27日	録音機材の基礎知識② マイクの周波数特性					
13	2月3日	録音機材の基礎知識③ マイクの指向特性とステレオ録音					
14	2月10日	録音機材の基礎知識④ レベルメーターの種類と原理					
15	2月17日	総まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		15時間中6時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(照明)		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組、B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台照明の基本について					
8期		4Fホールのシステムと操作卓について					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	照明機材やケーブルについて					
2	10月13日	機材の仕込み方について(点灯するまでの仕組み)					
3	10月20日	配線ケーブルや変換ケーブルを使用する仕込みについて					
4	10月27日	カラーフィルターやフォーカスについて					
5	11月10日	フロア仕込みについて					
6	11月17日	フォーカスの名称について					
7	11月24日	操作卓について					
8	12月1日	ケージの強弱や明りの組み合わせについて					
9	12月8日	シーンづくりについて					
10	1月19日	仕込み①					
11	1月26日	仕込み②					
12	2月2日	仕込み③					
13	2月9日	実技テスト(予定)					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(PA)		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務				
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者	授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期		修 得 目 標				
7期		PAの機材、仕事内容を理解し基本的な取り扱いができるようになる				
8期		簡易PAシステムの設置 & オペレートを理解する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	オリエンテーション、ケーブル巻き				
2	10月13日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い				
3	10月20日	PA機材の名称、取り扱い等を理解				
4	10月27日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
5	11月10日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
6	11月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)				
7	11月24日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)				
8	12月1日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。				
9	12月8日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは				
10	1月19日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習				
11	1月26日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験				
12	2月2日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習				
13	2月9日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験				
14	2月16日	定期試験対策問題				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		選択(動画制作)		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像作品の企画、撮影、編集について学ぶ					
8期		与えられたテーマを映像で表現する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	カメラについて(設定やカメラワーク)					
3	10月20日	Premiereによるノンリニア編集について					
4	10月27日	映像の構成について					
5	11月3日	テーマに沿った映像制作Ⅰ①(企画)					
6	11月10日	テーマに沿った映像制作Ⅰ②(撮影)					
7	11月17日	テーマに沿った映像制作Ⅰ③(編集、カラーコレクション)					
8	11月24日	テーマに沿った映像制作Ⅰ④(テロップ、MA、完成)					
9	12月1日	テーマに沿った映像制作Ⅱ①(企画)					
10	12月15日	テーマに沿った映像制作Ⅱ②(撮影)					
11	1月19日	テーマに沿った映像制作Ⅱ③(編集、カラーコレクション)					
12	1月26日	テーマに沿った映像制作Ⅱ④(テロップ、MA、完成)					
13	2月2日	完成作品の試写、ディスカッション					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(REC)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		スタジオ録音機材の概要についての知識を修得する。					
8期		録音現場の基本作業を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	スタジオ内部システムの概要					
2	10月13日	調整卓の基本操作とマイクロフォンについて					
3	10月20日	外部エフェクタの概要(ダイナミック系)					
4	10月27日	外部エフェクタの概要(センドリターン系)					
5	11月10日	ProToolsの基本操作について					
6	11月17日	ブース内でのマイクセッティングについて					
7	11月24日	ブースからコントロールルームまでの信号の流れについて					
8	12月1日	録音実践1(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
9	12月8日	録音実践2(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
10	1月19日	録音実践3(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
11	1月26日	MIX実践1(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
12	2月2日	MIX実践2(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
13	2月9日	MIX実践3(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(カラーコーディネイト)		担当講師		木村 真祐美	
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の基礎知識を修得する。色彩を身近に感じ、楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
8期		色に関する感性を磨き、自分の似合う色を発見し相手に与える印象を高め、ビジネスシーンで色彩活用ができることを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス 色の働きと色の見える仕組みについて					
2	10月13日	色彩基礎知識について					
3	10月20日	色の感情作用、知覚的効果について					
4	10月27日	色彩調和(配色テクニック)について					
5	11月10日	色とイメージの関係について①					
6	11月17日	色とイメージの関係について②					
7	11月24日	カラーマーケティングについて					
8	12月1日	パーソナルカラー(似合う色)について①					
9	12月8日	パーソナルカラー(似合う色)について②					
10	1月19日	カラーセラピー(色彩心理)について					
11	1月26日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
12	2月2日	ユニバーサルカラー(デザイン)について					
13	2月9日	色彩コミュニケーションについて					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		社会人に必要なビジネスマナーを身に付ける。					
8期		社会人に必要なビジネスマナーを修得し、企業研修で実践する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	新入社員の心得					
2	10月16日	社会人としての身だしなみ、自己管理について					
3	10月23日	仕事の進め方について					
4	10月30日	職場でのコミュニケーション講座 ※特別講師					
5	11月6日	電話応対について①					
6	11月13日	電話応対について②(実践)					
7	11月20日	名刺交換おさらい(実践)					
8	11月27日	OB講義 ※OB来校					
9	12月4日	来客へのマナー					
10	1月22日	お茶の入れ方					
11	1月29日	郵便の種類、取扱いについて					
12	2月5日	テーブルマナーについて					
13	2月12日	ビジネス文書					
14	2月19日	仕事の目標設定					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
8期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方①					
2	10月16日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方②					
3	10月23日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方③					
4	10月30日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方④					
5	11月6日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑤					
6	11月13日	新聞の「ニュース記事」や「コラム」を取り上げ、ポイントを解説。レポート提出					
7	11月20日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑥					
8	11月27日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑦					
9	12月4日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑧					
10	1月22日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑨					
11	1月29日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑩					
12	2月5日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑪					
13	2月12日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑫					
14	2月19日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		映像概論		担当講師		平野 雄司	
講師実務経験		番組制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	45	分
期		修 得 目 標					
7期		様々な分野を担当する立場から映像を理解する。					
8期		実際に様々な作品を見て改めて映像とはどういうものかを学ぶ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス					
2	10月15日	テレビ、映画照明と舞台照明の違いについて					
3	10月22日	映像制作する際の仕事のスタート地点はどこにあるのか					
4	10月29日	情報系番組の映像について					
5	11月5日	テレビの音楽番組の映像について					
6	11月12日	舞台の映像について					
7	11月19日	テレビドラマの映像について					
8	11月26日	時代劇と現代劇の映像について					
9	12月3日	映像に関わる季節や時間について					
10	12月17日	プロモーションビデオの映像について					
11	1月21日	記録映像、学術映像、WEBなどの映像について					
12	1月28日	CM作品の映像について					
13	2月4日	演出されたの映像について					
14	2月18日	授業のまとめと定期試験について					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		著作権論		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		音楽業界に関わる上で必要な音楽業界のしくみや流通戦略について理解する。					
8期		著作権収入及び著作権法での問題点を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	授業ガイダンス					
2	10月15日	音楽業界の代表的な職種及び不況音楽業界について					
3	10月22日	メジャーレーベル及びアーティスト活動の種類について					
4	10月29日	音楽創造サイクル及び音楽CDが店頭に並ぶまでについて					
5	11月5日	音楽業界の仕組み及びCDが出来るまでの詳細について					
6	11月12日	アーティストの発掘及びCDが出来るまでの詳細について					
7	11月19日	著作隣接権及び著作権用語について					
8	11月26日	著作権と知的財産権、著作権と音楽出版社について					
9	12月3日	アーティストのギャラ構造及び著作権問題(コピー・ネット・その他)について					
10	1月21日	アーティストの著作権収入計算の仕方について①					
11	1月28日	アーティストの著作権収入計算の仕方について②					
12	2月4日	著作権収入小テスト					
13	2月18日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		26時間中9時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		舞台照明Ⅳ		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・テレビ照明、ライブ音響 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		基本技術の応用を身につける。プランニングやデータ作成力を身に付ける。					
8期		他セクションとコミュニケーションをとり、実際に本番を行う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日	授業の概要説明。実習に向けて班分け					
2	10月12日	技術の復習					
3	10月19日	技術の応用について					
4	10月26日	打ち合わせ、プランニグについて					
5	11月2日	プランに合わせた仕込み図、回線表の作成					
6	11月9日	企画会議①					
7	11月16日	企画会議②					
8	11月30日	シミュレーション①、本番に向け他セクションと修正					
9	12月7日	シミュレーション②、本番に向け他セクションと修正					
10	1月18日	シミュレーション③、本番に向け他セクションと修正					
11	1月25日	本番①、反省会					
12	2月1日	本番②、反省会					
13	2月8日	本番③、反省会					
14	2月15日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		照明プランニングⅡ		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・テレビ照明専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台やテレビなどの音楽の照明プランニングを修得する。					
8期		テレビドラマや中継などの照明プランニングを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス。テレビのフラットな照明プランニングについて					
2	10月13日	音楽のプランで、キーライト(心理描写)やオサエ(SS)の考え方・手法について					
3	10月20日	音楽などのプランで、炎などを描く手法について					
4	10月27日	音楽などのプランで、夕陽・夕焼けなどを描く手法について					
5	11月10日	音楽やドラマなどのプランで、水鏡を出す手法について					
6	11月17日	音楽などのプランで、動きのある影などを描く手法について					
7	11月24日	ドラマなどのプランで、電気スタンド、ローソク明かりなどを作る手法について					
8	12月1日	ドラマなどのスタジオで、月光、街路灯、車や繁華街の路地の明かりを作る手法について					
9	12月8日	ドラマなどのスタジオで、レースのカーテンの影や木洩れ日などを出す手法について					
10	1月19日	ドラマなどで、屋内のNシーンのロケーションにおけるプランニング・技法について					
11	1月26日	ドラマなどで、屋内のDトシーンのロケーションにおけるプランニング・技法について					
12	2月2日	ドラマなどで、屋外のロケーションにおけるプランニング・技法について					
13	2月9日	ゴルフやジャンプ中継など、外景を生かした番組などのプランニング・技法について					
14	2月16日	7期8期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)、実技(50%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		機材メンテナンス		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・テレビ照明専攻		授業形態	演習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		各種工具等の正しい使用法を修得する。					
8期		現場で生きる対応力の一つとして機材の構造を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	アナログ機材メンテナンスについて①					
3	10月21日	アナログ機材メンテナンスについて②					
4	10月28日	アナログ機材メンテナンスについて③					
5	11月4日	デジタル機材メンテナンスについて①					
6	11月11日	デジタル機材メンテナンスについて②					
7	11月18日	電源ケーブル、コネクターのメンテナンスについて①					
8	11月25日	電源ケーブル、コネクターのメンテナンスについて②					
9	12月2日	DMX、3Pキャノンケーブルのメンテナンスについて①					
10	1月20日	DMX、3Pキャノンケーブルのメンテナンスについて②					
11	1月27日	照明卓、周辺機器のメンテナンスについて					
12	2月3日	精密機器のメンテナンスについて					
13	2月10日	最近の照明機材について①					
14	2月17日	最近の照明機材について②					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		15回中6回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		CAD実習Ⅲ		担当講師		佐藤 直子	
講師実務経験		建築士、インテリアコーディネーター					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・テレビ照明専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		実践的なソフトの使用方法を修得する					
8期		テーマに沿った図面の作成技術を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	オリジナル図面製作について(間取り)					
3	10月21日	オリジナル図面製作(課題)					
4	10月28日	オリジナル図面製作(課題)					
5	11月4日	3Dについて(課題)					
6	11月11日	3Dについて(課題)					
7	11月18日	企画書.提案書.プレゼンについて					
8	11月25日	オリジナル店舗製作(企画書)					
9	12月2日	オリジナル店舗図面製作(課題)					
10	1月20日	オリジナル店舗図面製作(課題)					
11	1月27日	オリジナル店舗図面製作(プレゼンテーション)					
12	2月3日	リニューアル提案書(図面)について					
13	2月10日	リニューアル提案書(課題)					
14	2月17日	リニューアル提案書(プレゼンテーション)					
評価方法		実技修得度(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		TV照明		担当講師		近藤 薫	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	コンサート・テレビ照明専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		CMなど、商品撮影の照明のイメージを養い、表現できるように基礎を修得する。					
8期		CMなど、商品撮影の照明のイメージを養い、表現できるように基礎を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	「オイルライター」 照明の映りを防ぎ、金属製品の質感を表現する。					
2	10月15日	「オイルライター」 照明の映りを防ぎ、金属製品の質感を表現する。					
3	10月22日	STVのスタジオ見学。現場に携わっているプロの説明を受ける。					
4	10月29日	「一眼レフカメラ」 黒い金属・プラスチック製品の立体感を表現する。					
5	11月5日	「一眼レフカメラ」 黒い金属・プラスチック製品の立体感を表現する。					
6	11月12日	「ティーポット」 白い陶器の質感と丸みを表現し、照明の映りを防ぐ。					
7	11月19日	「ティーポット」 白い陶器の質感と丸みを表現し、照明の映りを防ぐ。					
8	11月26日	「ブランデーボトル」 半透明のボトルとラベルの質感を出す。					
9	12月3日	「ブランデーボトル」 半透明のボトルとラベルの質感を出す。					
10	1月21日	「腕時計」 金色・銀色など、多種の金属に対する照明を考察する。					
11	1月28日	「腕時計」 金色・銀色など、多種の金属に対する照明を考察する。					
12	2月4日	「ナイフ」 金属の質感を表現し、照明の映りを防ぐ。					
13	2月18日	「ナイフ」 金属の質感を表現し、照明の映りを防ぐ。					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		13回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(照明)		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組、B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台照明の基本について					
8期		4Fホールのシステムと操作卓について					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	照明機材やケーブルについて					
2	10月13日	機材の仕込み方について(点灯するまでの仕組み)					
3	10月20日	配線ケーブルや変換ケーブルを使用する仕込みについて					
4	10月27日	カラーフィルターやフォーカスについて					
5	11月10日	フロア仕込みについて					
6	11月17日	フォーカスの名称について					
7	11月24日	操作卓について					
8	12月1日	ケージの強弱や明りの組み合わせについて					
9	12月8日	シーンづくりについて					
10	1月19日	仕込み①					
11	1月26日	仕込み②					
12	2月2日	仕込み③					
13	2月9日	実技テスト(予定)					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(PA)		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務				
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者	授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期		修 得 目 標				
7期		PAの機材、仕事内容を理解し基本的な取り扱いができるようになる				
8期		簡易PAシステムの設置 & オペレートを理解する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	オリエンテーション、ケーブル巻き				
2	10月13日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い				
3	10月20日	PA機材の名称、取り扱い等を理解				
4	10月27日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
5	11月10日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
6	11月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)				
7	11月24日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)				
8	12月1日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。				
9	12月8日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは				
10	1月19日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習				
11	1月26日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験				
12	2月2日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習				
13	2月9日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験				
14	2月16日	定期試験対策問題				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		選択(動画制作)		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像作品の企画、撮影、編集について学ぶ					
8期		与えられたテーマを映像で表現する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	カメラについて(設定やカメラワーク)					
3	10月20日	Premiereによるノンリニア編集について					
4	10月27日	映像の構成について					
5	11月3日	テーマに沿った映像制作Ⅰ①(企画)					
6	11月10日	テーマに沿った映像制作Ⅰ②(撮影)					
7	11月17日	テーマに沿った映像制作Ⅰ③(編集、カラーコレクション)					
8	11月24日	テーマに沿った映像制作Ⅰ④(テロップ、MA、完成)					
9	12月1日	テーマに沿った映像制作Ⅱ①(企画)					
10	12月15日	テーマに沿った映像制作Ⅱ②(撮影)					
11	1月19日	テーマに沿った映像制作Ⅱ③(編集、カラーコレクション)					
12	1月26日	テーマに沿った映像制作Ⅱ④(テロップ、MA、完成)					
13	2月2日	完成作品の試写、ディスカッション					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(REC)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		スタジオ録音機材の概要についての知識を修得する。					
8期		録音現場の基本作業を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	スタジオ内部システムの概要					
2	10月13日	調整卓の基本操作とマイクロフォンについて					
3	10月20日	外部エフェクタの概要(ダイナミック系)					
4	10月27日	外部エフェクタの概要(センドリターン系)					
5	11月10日	ProToolsの基本操作について					
6	11月17日	ブース内でのマイクセッティングについて					
7	11月24日	ブースからコントロールルームまでの信号の流れについて					
8	12月1日	録音実践1(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
9	12月8日	録音実践2(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
10	1月19日	録音実践3(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
11	1月26日	MIX実践1(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
12	2月2日	MIX実践2(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
13	2月9日	MIX実践3(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(カラーコーディネイト)		担当講師		木村 真祐美	
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の基礎知識を修得する。色彩を身近に感じ、楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
8期		色に関する感性を磨き、自分の似合う色を発見し相手に与える印象を高め、ビジネスシーンで色彩活用ができることを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス 色の働きと色の見える仕組みについて					
2	10月13日	色彩基礎知識について					
3	10月20日	色の感情作用、知覚的効果について					
4	10月27日	色彩調和(配色テクニック)について					
5	11月10日	色とイメージの関係について①					
6	11月17日	色とイメージの関係について②					
7	11月24日	カラーマーケティングについて					
8	12月1日	パーソナルカラー(似合う色)について①					
9	12月8日	パーソナルカラー(似合う色)について②					
10	1月19日	カラーセラピー(色彩心理)について					
11	1月26日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
12	2月2日	ユニバーサルカラー(デザイン)について					
13	2月9日	色彩コミュニケーションについて					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		社会人に必要なビジネスマナーを身に付ける。					
8期		社会人に必要なビジネスマナーを修得し、企業研修で実践する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	新入社員の心得					
2	10月16日	社会人としての身だしなみ、自己管理について					
3	10月23日	仕事の進め方について					
4	10月30日	職場でのコミュニケーション講座 ※特別講師					
5	11月6日	電話応対について①					
6	11月13日	電話応対について②(実践)					
7	11月20日	名刺交換おさらい(実践)					
8	11月27日	OB講義 ※OB来校					
9	12月4日	来客へのマナー					
10	1月22日	お茶の入れ方					
11	1月29日	郵便の種類、取扱いについて					
12	2月5日	テーブルマナーについて					
13	2月12日	ビジネス文書					
14	2月19日	仕事の目標設定					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
8期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方①					
2	10月16日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方②					
3	10月23日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方③					
4	10月30日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方④					
5	11月6日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑤					
6	11月13日	新聞の「ニュース記事」や「コラム」を取り上げ、ポイントを解説。レポート提出					
7	11月20日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑥					
8	11月27日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑦					
9	12月4日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑧					
10	1月22日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑨					
11	1月29日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑩					
12	2月5日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑪					
13	2月12日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑫					
14	2月19日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		放送ビジネス		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作,Web動画・PV制作,ラジオ番組制作 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		クライアント、代理店、媒体の関係から広告全体を読み解いてく					
8期		クライアント、代理店、媒体の関係から広告全体を読み解いてく					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	テレビ局と広告の関係について					
3	10月20日	広告のジャンルについて					
4	10月27日	商品、企業を売り込むための投資について					
5	11月10日	NHKと民放の違いについて					
6	11月17日	広告の歴史と視聴者の消費行動について					
7	11月24日	スポンサー、代理店、媒体の関係について					
8	12月1日	テレビ局の売り上げについて					
9	12月8日	広告代理店の仕事①					
10	1月19日	広告代理店の仕事②					
11	1月26日	インターネット広告の現状について					
12	2月2日	放送と通信の相互協力について					
13	2月9日	まとめ、復習					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ストリーミングⅡ		担当講師		岡 宏樹	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	Web動画・PV制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		ライブ配信の特徴を理解し、オリジナルの配信番組を制作する					
8期		配信番組の制作を通じてスタッフ間の連携を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス オリジナル配信番組の企画①					
2	10月14日	オリジナル配信番組の企画②					
3	10月21日	オリジナル配信番組の企画③					
4	10月28日	オリジナル配信番組の素材作成①					
5	11月4日	オリジナル配信番組の素材作成②					
6	11月11日	ライブ配信リハ①					
7	11月18日	ライブ配信本番①					
8	11月25日	オリジナル配信番組試写、修正					
9	12月2日	ライブ配信リハ②					
10	12月16日	ライブ配信本番②					
11	1月20日	ライブ配信リハ③					
12	1月27日	ライブ配信本番③					
13	2月3日	オリジナル配信番組試写					
14	2月17日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		モーショングラフィック		担当講師		水上 志乃	
講師実務経験		映像制作会社に勤務後、フリーランスとして撮影・編集業務に携わる					
対象学年		2 学年	対象専攻	Web動画・PV制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		AEの基本操作を復習し、作品制作を行う					
8期		2年間で作ってきた作品をポートフォリオとしてまとめることができる					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス 、 作品研究 、 初級・中級の総まとめ1					
2	10月14日	作品制作の企画を行う					
3	10月21日	作品制作1-1					
4	10月28日	作品制作1-2					
5	11月4日	作品制作1-3					
6	11月11日	作品制作1-4					
7	11月18日	作品の試写会、意見交換					
8	11月25日	ポートフォリオ制作1					
9	12月2日	ポートフォリオ制作2					
10	12月20日	ポートフォリオ制作3					
11	12月27日	ポートフォリオ制作4					
12	2月3日	ポートフォリオ制作5					
13	2月10日	ポートフォリオ制作6					
14	2月17日	ポートフォリオの試写会、意見交換、試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽研究			担当講師		森 良太				
講師実務経験		音響会社勤務									
対象学年		2	学年	対象専攻		B組		授業形態	講義		
期 間		7期・8期		総授業回数		14	回	1回あたりの授業時間		45	分
期		修 得 目 標									
7期		様々な音楽ジャンルとそのルーツについての知識を修得する。									
8期		実際に様々なジャンルを鑑賞し、深い知識を修得する。									
回数	日程	【授 業 計 画】									
1	10月9日	授業ガイダンス									
2	10月16日	ブラックミュージックについて①									
3	10月23日	ブラックミュージックについて②									
4	10月30日	ブラックミュージックについて③									
5	11月6日	ジャズについて									
6	11月13日	ポップスについて									
7	11月20日	ロックについて									
8	11月27日	クラシックについて									
9	12月4日	エレクトロニカについて									
10	1月22日	オルタナ、民族音楽について									
11	1月29日	ブラックミュージックの鑑賞									
12	2月5日	ジャズ、ポップス、ロックの鑑賞									
13	2月12日	クラシック、エレクトロニカ、オルタナ、民族音楽の鑑賞									
14	2月19日	定期試験対策									
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)									
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)									
テキスト		プリント配布									
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)									

科目名		作品企画		担当講師		河西 隆之	
講師実務経験		テレビ番組制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作・Web動画・PV制作 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	4 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		番組の構成・台本の作り方を実践的に習得する					
8期		番組の構成・台本の作り方を実践的に習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	班ごとに分かれ作品①の企画立案、構成・台本を完成					
2	10月29日	作品①についてのディスカッション / 同じ班で役割を代えて、作品②の企画立案					
3	11月5日	作品②構成・台本を完成					
4	1月21日	班を組み直し、作品③の企画立案、構成・台本を完成					
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		24時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		作品撮影		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作、Web動画・PV制作 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	5 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		実践を通してプロとして必要なテクニックを修得する。					
8期		2年間の集大成として制作力・技術力のレベルアップを図る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月15日	ロケーション撮影及びスタジオ収録①（作品企画に沿った撮影機材の選定）					
2	11月12日	ロケーション撮影及びスタジオ収録②					
3	11月19日	ロケーション撮影及びスタジオ収録③					
4	1月28日	ロケーション撮影及びスタジオ収録④					
5	2月18日	ロケーション撮影及びスタジオ収録⑤					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		資料配布					
注意事項		30時間中11時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		作品編集		担当講師		岡 宏樹	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作、Web動画・PV制作 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	4 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		映像表現の実践的なテクニックを習得する					
8期		作品のクオリティアップを目指して制作をする					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月22日	作品制作Ⅰ 編集(素材取り込み～編集～完成)					
2	11月26日	作品制作Ⅱ ①編集(素材の取り込み、編集、カラーコレクション)					
3	12月03日	作品制作Ⅱ ②編集(テロップ、MA、完成)					
4	02月04日	作品制作Ⅲ 編集(素材取り込み～編集～完成)					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		30時間中11時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		作品制作		担当講師		高橋 学	
講師実務経験		映画の予告編やCMなどを製作するclapfilm LLP代表。その他に、PVや企業VP、コンサート映像など幅広く手がける。映画、CMなどの撮影をサポートするゆうばりフィルムコミッション代表。ゆうばり映画祭、実行委員。障がい者のタレント事務所、ケセラランパセラン代表。					
対象学年		2 学年	対象専攻	Web動画・PV制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		集大成の作品作りの中、特にプリプロダクションの部分のいろいろな知識、技術を習得していく。					
8期		集大成の作品作りの中、特にプロダクション、ポストプロダクションの部分のいろいろな知識、技術を習得していく。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日	授業ガイダンス					
2	10月12日	企画、プロットの作成①。					
3	10月19日	企画、プロットの作成②。シナハンを行う。画コンテの作成。					
4	10月26日	シナリオの作成。シナハンを行う。					
5	11月2日	テスト撮影、脚本読みなど。					
6	11月9日	香盤表を作る。合成部分などのテスト撮影。					
7	11月16日	撮影①。撮影技術の向上を目指す。					
8	11月30日	撮影②。荒編を開始する。					
9	12月7日	撮影③。荒編の完成。					
10	1月18日	撮影④。試写を行う。					
11	1月25日	編集①。編集技術の向上を目指す。					
12	2月1日	編集②。追加撮影、再撮影を行う。					
13	2月8日	曲入れ、編集を完成させる。					
14	2月15日	完成試写。					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		84時間中28時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(照明)		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組、B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台照明の基本について					
8期		4Fホールのシステムと操作卓について					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	照明機材やケーブルについて					
2	10月13日	機材の仕込み方について(点灯するまでの仕組み)					
3	10月20日	配線ケーブルや変換ケーブルを使用する仕込みについて					
4	10月27日	カラーフィルターやフォーカスについて					
5	11月10日	フロア仕込みについて					
6	11月17日	フォーカスの名称について					
7	11月24日	操作卓について					
8	12月1日	ケージの強弱や明りの組み合わせについて					
9	12月8日	シーンづくりについて					
10	1月19日	仕込み①					
11	1月26日	仕込み②					
12	2月2日	仕込み③					
13	2月9日	実技テスト(予定)					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(PA)		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務				
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者	授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期		修 得 目 標				
7期		PAの機材、仕事内容を理解し基本的な取り扱いができるようになる				
8期		簡易PAシステムの設置 & オペレートを理解する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	オリエンテーション、ケーブル巻き				
2	10月13日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い				
3	10月20日	PA機材の名称、取り扱い等を理解				
4	10月27日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
5	11月10日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
6	11月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)				
7	11月24日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)				
8	12月1日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。				
9	12月8日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは				
10	1月19日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習				
11	1月26日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験				
12	2月2日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習				
13	2月9日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験				
14	2月16日	定期試験対策問題				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		選択(動画制作)		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像作品の企画、撮影、編集について学ぶ					
8期		与えられたテーマを映像で表現する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	カメラについて(設定やカメラワーク)					
3	10月20日	Premiereによるノンリニア編集について					
4	10月27日	映像の構成について					
5	11月3日	テーマに沿った映像制作Ⅰ①(企画)					
6	11月10日	テーマに沿った映像制作Ⅰ②(撮影)					
7	11月17日	テーマに沿った映像制作Ⅰ③(編集、カラーコレクション)					
8	11月24日	テーマに沿った映像制作Ⅰ④(テロップ、MA、完成)					
9	12月1日	テーマに沿った映像制作Ⅱ①(企画)					
10	12月15日	テーマに沿った映像制作Ⅱ②(撮影)					
11	1月19日	テーマに沿った映像制作Ⅱ③(編集、カラーコレクション)					
12	1月26日	テーマに沿った映像制作Ⅱ④(テロップ、MA、完成)					
13	2月2日	完成作品の試写、ディスカッション					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(REC)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		スタジオ録音機材の概要についての知識を修得する。					
8期		録音現場の基本作業を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	スタジオ内部システムの概要					
2	10月13日	調整卓の基本操作とマイクロフォンについて					
3	10月20日	外部エフェクタの概要(ダイナミック系)					
4	10月27日	外部エフェクタの概要(センドリターン系)					
5	11月10日	ProToolsの基本操作について					
6	11月17日	ブース内でのマイクセッティングについて					
7	11月24日	ブースからコントロールルームまでの信号の流れについて					
8	12月1日	録音実践1(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
9	12月8日	録音実践2(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
10	1月19日	録音実践3(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
11	1月26日	MIX実践1(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
12	2月2日	MIX実践2(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
13	2月9日	MIX実践3(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(カラーコーディネイト)		担当講師		木村 真祐美	
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の基礎知識を修得する。色彩を身近に感じ、楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
8期		色に関する感性を磨き、自分の似合う色を発見し相手に与える印象を高め、ビジネスシーンで色彩活用ができることを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス 色の働きと色の見える仕組みについて					
2	10月13日	色彩基礎知識について					
3	10月20日	色の感情作用、知覚的効果について					
4	10月27日	色彩調和(配色テクニック)について					
5	11月10日	色とイメージの関係について①					
6	11月17日	色とイメージの関係について②					
7	11月24日	カラーマーケティングについて					
8	12月1日	パーソナルカラー(似合う色)について①					
9	12月8日	パーソナルカラー(似合う色)について②					
10	1月19日	カラーセラピー(色彩心理)について					
11	1月26日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
12	2月2日	ユニバーサルカラー(デザイン)について					
13	2月9日	色彩コミュニケーションについて					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		社会人に必要なビジネスマナーを身に付ける。					
8期		社会人に必要なビジネスマナーを修得し、企業研修で実践する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	新入社員の心得					
2	10月16日	社会人としての身だしなみ、自己管理について					
3	10月23日	仕事の進め方について					
4	10月30日	職場でのコミュニケーション講座 ※特別講師					
5	11月6日	電話応対について①					
6	11月13日	電話応対について②(実践)					
7	11月20日	名刺交換おさらい(実践)					
8	11月27日	OB講義 ※OB来校					
9	12月4日	来客へのマナー					
10	1月22日	お茶の入れ方					
11	1月29日	郵便の種類、取扱いについて					
12	2月5日	テーブルマナーについて					
13	2月12日	ビジネス文書					
14	2月19日	仕事の目標設定					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
8期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方①					
2	10月16日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方②					
3	10月23日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方③					
4	10月30日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方④					
5	11月6日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑤					
6	11月13日	新聞の「ニュース記事」や「コラム」を取り上げ、ポイントを解説。レポート提出					
7	11月20日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑥					
8	11月27日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑦					
9	12月4日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑧					
10	1月22日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑨					
11	1月29日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑩					
12	2月5日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑪					
13	2月12日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑫					
14	2月19日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		放送ビジネス		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作,Web動画・PV制作,ラジオ番組制作 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		クライアント、代理店、媒体の関係から広告全体を読み解いてく					
8期		クライアント、代理店、媒体の関係から広告全体を読み解いてく					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	テレビ局と広告の関係について					
3	10月20日	広告のジャンルについて					
4	10月27日	商品、企業を売り込むための投資について					
5	11月10日	NHKと民放の違いについて					
6	11月17日	広告の歴史と視聴者の消費行動について					
7	11月24日	スポンサー、代理店、媒体の関係について					
8	12月1日	テレビ局の売り上げについて					
9	12月8日	広告代理店の仕事①					
10	1月19日	広告代理店の仕事②					
11	1月26日	インターネット広告の現状について					
12	2月2日	放送と通信の相互協力について					
13	2月9日	まとめ、復習					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		モーショングラフィック		担当講師		水上 志乃	
講師実務経験		映像制作会社に勤務後、フリーランスとして撮影・編集業務に携わる					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		AEのプロジェクト新規作成から、パスアニメーションまでを習得する					
8期		AEのシェイプレイヤーから、Premiereとの連携方法を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス 、 作例紹介 、 作品研究					
2	10月14日	作品研究 、 AEのプロジェクトの基本構造を理解する					
3	10月21日	キーフレーム機能を理解する					
4	10月28日	テキストツールを理解する レイアースタイルに触れてみる					
5	11月4日	シェイプレイヤーを理解する					
6	11月11日	マスク機能・トラックマットについて					
7	11月18日	自由課題制作1					
8	11月25日	テキストアニメーションについて					
9	12月2日	テキストアニメーションについて2 / パスアニメーションについて					
10	1月20日	クロマキー合成について					
11	1月27日	プリコンポーズの概念 タイムリマップ機能 AEの標準エフェクト、Premiereの連携について					
12	2月3日	自由課題制作2-1					
13	2月10日	自由課題制作2-2					
14	2月17日	課題の発表と考察、試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		MA実習Ⅲ		担当講師		田 莉子 和之	
講師実務経験		音楽・番組制作会社に勤務。 テレビ番組等、映像制作の音に携わる。					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		MA作業の理解と、付随する特殊用語の習熟、及び、音声・映像・同期関係に関する知識と音声編集の作業レスポンスの向上を目標としを習得する。					
8期		MAの知識と技能を総括します。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月7日	授業ガイダンス					
2	10月14日	MA作業準備 / 整音について					
3	10月21日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(1)					
4	10月28日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(2)					
5	11月4日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(3)					
6	11月11日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(4)					
7	11月18日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(5)					
8	11月25日	ナレーション・アフレコの収録 / 音楽や効果音の仕込みについて(6)					
9	12月2日	整音／ミックスダウンについて(1)					
10	1月20日	整音／ミックスダウンについて(2)					
11	1月27日	授業まとめ／ 実技習得度判定試験対策					
12	2月3日	試験対策					
13	2月10日	実技習得度判定試験					
14	2月17日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:実技習得度判定試験の実施 *【授業計画】参照					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽研究			担当講師		森 良太				
講師実務経験		音響会社勤務									
対象学年		2	学年	対象専攻		B組		授業形態	講義		
期 間		7期・8期		総授業回数		14	回	1回あたりの授業時間		45	分
期		修 得 目 標									
7期		様々な音楽ジャンルとそのルーツについての知識を修得する。									
8期		実際に様々なジャンルを鑑賞し、深い知識を修得する。									
回数	日程	【授 業 計 画】									
1	10月9日	授業ガイダンス									
2	10月16日	ブラックミュージックについて①									
3	10月23日	ブラックミュージックについて②									
4	10月30日	ブラックミュージックについて③									
5	11月6日	ジャズについて									
6	11月13日	ポップスについて									
7	11月20日	ロックについて									
8	11月27日	クラシックについて									
9	12月4日	エレクトロニカについて									
10	1月22日	オルタナ、民族音楽について									
11	1月29日	ブラックミュージックの鑑賞									
12	2月5日	ジャズ、ポップス、ロックの鑑賞									
13	2月12日	クラシック、エレクトロニカ、オルタナ、民族音楽の鑑賞									
14	2月19日	定期試験対策									
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)									
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)									
テキスト		プリント配布									
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)									

科目名		作品企画		担当講師		河西 隆之	
講師実務経験		テレビ番組制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作・Web動画・PV制作 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	4 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		番組の構成・台本の作り方を実践的に習得する③					
8期		番組の構成・台本の作り方を実践的に習得する④					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月8日	班ごとに分かれ作品①の企画立案、構成・台本を完成					
2	10月29日	作品①についてのディスカッション / 同じ班で役割を代えて、作品②の企画立案					
3	11月5日	作品②構成・台本を完成					
4	1月21日	班を組み直し、作品③の企画立案、構成・台本を完成					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		24時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		作品撮影		担当講師	田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務				
対象学年	2 学年	対象専攻	テレビ番組制作、Web動画・PV制作 各専攻		授業形態	実習
期 間	7期・8期	総授業回数	5 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標				
7期		実践を通してプロとして必要なテクニックを修得する。				
8期		2年間の集大成として制作力・技術力のレベルアップを図る。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月15日	ロケーション撮影及びスタジオ収録①（作品企画に沿った撮影機材の選定）				
2	11月12日	ロケーション撮影及びスタジオ収録②				
3	11月19日	ロケーション撮影及びスタジオ収録③				
4	1月28日	ロケーション撮影及びスタジオ収録④				
5	2月18日	ロケーション撮影及びスタジオ収録⑤				
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト		資料配布				
注意事項		30時間中11時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		作品編集		担当講師		岡 宏樹	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作、Web動画・PV制作 各専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	4 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
7期		映像表現の実践的なテクニックを習得する					
8期		作品のクオリティアップを目指して制作をする					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月22日	作品制作Ⅰ編集(素材取り込み～編集～完成)					
2	11月26日	作品制作Ⅱ①編集(素材の取り込み、編集、カラーコレクション)					
3	12月3日	作品制作Ⅱ②編集(テロップ、MA、完成)					
4	2月4日	作品制作Ⅲ編集(素材取り込み～編集～完成)					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(照明)		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A組、B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		舞台照明の基本について					
8期		4Fホールのシステムと操作卓について					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	照明機材やケーブルについて					
2	10月13日	機材の仕込み方について(点灯するまでの仕組み)					
3	10月20日	配線ケーブルや変換ケーブルを使用する仕込みについて					
4	10月27日	カラーフィルターやフォーカスについて					
5	11月10日	フロア仕込みについて					
6	11月17日	フォーカスの名称について					
7	11月24日	操作卓について					
8	12月1日	ケージの強弱や明りの組み合わせについて					
9	12月8日	シーンづくりについて					
10	1月19日	仕込み①					
11	1月26日	仕込み②					
12	2月2日	仕込み③					
13	2月9日	実技テスト(予定)					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(PA)		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務				
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者	授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期		修 得 目 標				
7期		PAの機材、仕事内容を理解し基本的な取り扱いができるようになる				
8期		簡易PAシステムの設置 & オペレートを理解する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月6日	オリエンテーション、ケーブル巻き				
2	10月13日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い				
3	10月20日	PA機材の名称、取り扱い等を理解				
4	10月27日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
5	11月10日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解				
6	11月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)				
7	11月24日	BGM、SEの送出(台本に沿ったオペレート)				
8	12月1日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。				
9	12月8日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは				
10	1月19日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習				
11	1月26日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験				
12	2月2日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート練習				
13	2月9日	台本に沿ってBGM,ナレーションのオペレート試験				
14	2月16日	定期試験対策問題				
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		選択(動画制作)		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		映像作品の企画、撮影、編集について学ぶ					
8期		与えられたテーマを映像で表現する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	カメラについて(設定やカメラワーク)					
3	10月20日	Premiereによるノンリニア編集について					
4	10月27日	映像の構成について					
5	11月3日	テーマに沿った映像制作Ⅰ①(企画)					
6	11月10日	テーマに沿った映像制作Ⅰ②(撮影)					
7	11月17日	テーマに沿った映像制作Ⅰ③(編集、カラーコレクション)					
8	11月24日	テーマに沿った映像制作Ⅰ④(テロップ、MA、完成)					
9	12月1日	テーマに沿った映像制作Ⅱ①(企画)					
10	12月15日	テーマに沿った映像制作Ⅱ②(撮影)					
11	1月19日	テーマに沿った映像制作Ⅱ③(編集、カラーコレクション)					
12	1月26日	テーマに沿った映像制作Ⅱ④(テロップ、MA、完成)					
13	2月2日	完成作品の試写、ディスカッション					
14	2月16日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(REC)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		スタジオ録音機材の概要についての知識を修得する。					
8期		録音現場の基本作業を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	スタジオ内部システムの概要					
2	10月13日	調整卓の基本操作とマイクロフォンについて					
3	10月20日	外部エフェクタの概要(ダイナミック系)					
4	10月27日	外部エフェクタの概要(センドリターン系)					
5	11月10日	ProToolsの基本操作について					
6	11月17日	ブース内でのマイクセッティングについて					
7	11月24日	ブースからコントロールルームまでの信号の流れについて					
8	12月1日	録音実践1(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
9	12月8日	録音実践2(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
10	1月19日	録音実践3(マイクセッティング～回線チェック～調整～録音)					
11	1月26日	MIX実践1(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
12	2月2日	MIX実践2(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
13	2月9日	MIX実践3(録音素材を使い卓でのラフミックス～完パケ制作)					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		選択(カラーコーディネイト)		担当講師		木村 真祐美	
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組 選択者		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
7期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の基礎知識を修得する。色彩を身近に感じ、楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
8期		色に関する感性を磨き、自分の似合う色を発見し相手に与える印象を高め、ビジネスシーンで色彩活用ができることを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス 色の働きと色の見える仕組みについて					
2	10月13日	色彩基礎知識について					
3	10月20日	色の感情作用、知覚的効果について					
4	10月27日	色彩調和(配色テクニック)について					
5	11月10日	色とイメージの関係について①					
6	11月17日	色とイメージの関係について②					
7	11月24日	カラーマーケティングについて					
8	12月1日	パーソナルカラー(似合う色)について①					
9	12月8日	パーソナルカラー(似合う色)について②					
10	1月19日	カラーセラピー(色彩心理)について					
11	1月26日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
12	2月2日	ユニバーサルカラー(デザイン)について					
13	2月9日	色彩コミュニケーションについて					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		社会人に必要なビジネスマナーを身に付ける。					
8期		社会人に必要なビジネスマナーを修得し、企業研修で実践する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	新入社員の心得					
2	10月16日	社会人としての身だしなみ、自己管理について					
3	10月23日	仕事の進め方について					
4	10月30日	職場でのコミュニケーション講座 ※特別講師					
5	11月6日	電話応対について①					
6	11月13日	電話応対について②(実践)					
7	11月20日	名刺交換おさらい(実践)					
8	11月27日	OB講義 ※OB来校					
9	12月4日	来客へのマナー					
10	1月22日	お茶の入れ方					
11	1月29日	郵便の種類、取扱いについて					
12	2月5日	テーブルマナーについて					
13	2月12日	ビジネス文書					
14	2月19日	仕事の目標設定					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		時事研究		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
7期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
8期		今、北海道は、日本は、世界はどう動いているのかを、具体的な事件、事故等を報道事例を学ぶ					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月9日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方①					
2	10月16日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方②					
3	10月23日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方③					
4	10月30日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方④					
5	11月6日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑤					
6	11月13日	新聞の「ニュース記事」や「コラム」を取り上げ、ポイントを解説。レポート提出					
7	11月20日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑥					
8	11月27日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑦					
9	12月4日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑧					
10	1月22日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑨					
11	1月29日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑩					
12	2月5日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑪					
13	2月12日	旬な新聞の「ニュース記事」や「コラム」の解説読み取り方⑫					
14	2月19日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		アナウンス概論Ⅲ		担当講師		長谷川 宏和	
講師実務経験		元 北海道テレビ放送アナウンサー					
対象学年		2 学年	対象専攻	ラジオ番組制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		トークの基本(話し方、発音、スピード他)を理解し、復習する。					
8期		幅広いトークを復習し、様々な場面に対応できる基礎力を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日	学生自己紹介＆私(長谷川)の自己紹介を通して新たな発見をする。					
2	10月12日	話し方の5つの基本を理解し実践してみる。					
3	10月19日	「あ～」の調音。メリハリをつける4つのチェックを実践してみる。					
4	10月26日	短編朗読・もぐ子とお兄ちゃん ～長ぐつ～にチャレンジ。					
5	11月2日	ニュース(1)原稿を読んでテクニックを身につける。					
6	11月9日	ニュース(2)原稿を読んでテクニックを身につける。					
7	11月16日	ニュース(3)原稿を読んでテクニックを身につける。					
8	11月30日	インタビュー原稿を基に具体的なテクニックを身につける。					
9	12月7日	CM原稿を実際に読み、気持ちを言葉にするテクニックを知る。					
10	1月18日	ラジオショッピング原稿を基に、リスナーに訴える具体的方法を知る。					
11	1月25日	短編朗読・もぐ子とお兄ちゃん ～おたんじょう日～ にチャレンジ。					
12	2月1日	イベントMCとは何か。パーソンバリエーとの違いを知る。					
13	2月8日	長編朗読・ケーキ屋さん(1)にチャレンジ。					
14	2月15日	長編朗読・ケーキ屋さん(2)にチャレンジ。					
評価方法		定期試験点数(100%)±10点(授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ラジオコミュニケーションⅢ		担当講師		増田 佳織	
講師実務経験		フリーアナウンサー/MC					
対象学年		2 学年	対象専攻	ラジオ番組制作専攻		授業形態	実習
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		業界で働くための心構えや応用的なコミュニケーション力をつける。番組制作の流れを十分に理解し、現場で通じる高い実践力を身につける。					
8期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月5日	自分の強み、個性をペアワークで見つける。自己診断テスト。					
2	10月12日	長尺番組の構成、ニュース・天気・スポーツ等の効率的な原稿の書き方。					
3	10月19日	放送自粛用語について振り返り、考察する。					
4	10月26日	伝える力(演技、声の幅等)を磨く。食レポート実践。					
5	11月2日	番組を試聴してディスカッションしてみる。					
6	11月9日	インタビューの組み立て、話の引き出し方。					
7	11月16日	テーマにあった選曲、曲紹介テクニック。					
8	11月30日	レポートや情景描写、フリートークの実践。					
9	12月7日	60分番組制作に向けての企画・アイデアを出し、具体的構成を考える。					
10	1月18日	60分番組制作に向けてのキャスティング、台本制作、選曲、原稿作成、曲紹介。					
11	1月25日	60分番組制作(リハーサル)					
12	2月1日	60分番組制作(本番収録①)					
13	2月8日	60分番組制作(本番収録②)					
14	2月15日	制作した番組試聴。反省会、まとめ。					
評価方法		定期試験点数(100%)±10点(授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		番組実践Ⅲ		担当講師	森 基誉則	
講師実務経験		MC/DJ/ライター				
対象学年	2 学年	対象専攻	ラジオ番組制作専攻		授業形態	実習
期 間	7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標				
7期		タイプの違う番組のトーク構成を、制作する。プロモーションに慣れ、考えて動く力・行動力を修得する。				
8期						
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月5日	インタビュー形式番組をつくる①				
2	10月12日	インタビュー形式番組をつくる②				
3	10月19日	インタビュー形式番組をつくる③				
4	10月26日	音楽形式の情報番組をつくる①				
5	11月2日	音楽形式の情報番組をつくる②				
6	11月9日	音楽形式の情報番組をつくる③				
7	11月16日	絵本のプロモーション番組をつくる①				
8	11月30日	絵本のプロモーション番組をつくる②				
9	12月7日	映画のプロモーション番組をつくる①				
10	1月18日	映画のプロモーション番組をつくる②				
11	1月25日	映画のプロモーション番組をつくる③				
12	2月1日	本校のプロモーション番組をつくる①				
13	2月8日	本校のプロモーション番組をつくる②				
14	2月15日	これまでのおさらい。定期試験対策				
評価方法		定期試験点数(100%)±10点(授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		放送ビジネス		担当講師		斎藤 忠貞	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		2 学年	対象専攻	テレビ番組制作,Web動画・PV制作,ラジオ番組制作 各専攻		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
7期		クライアント、代理店、媒体の関係から広告全体を読み解いてく					
8期		クライアント、代理店、媒体の関係から広告全体を読み解いてく					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	10月6日	授業ガイダンス					
2	10月13日	テレビ局と広告の関係について					
3	10月20日	広告のジャンルについて					
4	10月27日	商品、企業を売り込むための投資について					
5	11月10日	NHKと民放の違いについて					
6	11月17日	広告の歴史と視聴者の消費行動について					
7	11月24日	スポンサー、代理店、媒体の関係について					
8	12月1日	テレビ局の売り上げについて					
9	12月8日	広告代理店の仕事①					
10	1月19日	広告代理店の仕事②					
11	1月26日	インターネット広告の現状について					
12	2月2日	放送と通信の相互協力について					
13	2月9日	まとめ、復習					
14	2月16日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽研究			担当講師		森 良太	
講師実務経験		音響会社勤務						
対象学年		2	学年	対象専攻	2年B組		授業形態	講義
期 間		7期・8期	総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標						
7期		様々な音楽ジャンルとそのルーツについての知識を修得する。						
8期		実際に様々なジャンルを鑑賞し、深い知識を修得する。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	10月9日	授業ガイダンス						
2	10月16日	ブラックミュージックについて①						
3	10月23日	ブラックミュージックについて②						
4	10月30日	ブラックミュージックについて③						
5	11月6日	ジャズについて						
6	11月13日	ポップスについて						
7	11月20日	ロックについて						
8	11月27日	クラシックについて						
9	12月4日	エレクトロニカについて						
10	1月22日	オルタナ、民族音楽について						
11	1月29日	ブラックミュージックの鑑賞						
12	2月5日	ジャズ、ポップス、ロックの鑑賞						
13	2月12日	クラシック、エレクトロニカ、オルタナ、民族音楽の鑑賞						
14	2月19日	定期試験対策						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト		プリント配布						
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名	ラジオ実習Ⅳ		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験	広告代理店勤務					
対象学年	2 学年	対象専攻	ラジオ番組制作専攻		授業形態	実習
期 間	7期・8期	総授業回数	27 回	1回あたりの授業時間		270 分
期	修 得 目 標					
7期	ラジオCM、ジングル作成。ラジオドラマ制作にチャレンジしてみる。					
8期						
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	10月7日	授業ガイダンス、CM原案を検討しキューシート化				
2	10月8日	キューシートを基にCM原稿作成、及び音源選定、リハーサル実施				
3	10月14日	本番収録(パターンを変えて5テイク収録)。検聴、反省会				
4	10月15日	PCソフトを使用してのジングルづくり①				
5	10月21日	PCソフトを使用してのジングルづくり②				
6	10月22日	ラジオコンソールを使用してのジングルづくり				
7	10月28日	ラジオドラマ原案考案。キャスト決定				
8	10月29日	台本(脚本)作成①				
9	11月4日	台本(脚本)作成②				
10	11月5日	台本(脚本)作成③				
11	11月11日	台本(脚本)作成④				
12	11月12日	声収録作業①				
13	11月18日	声収録作業②				
14	11月19日	声収録作業③				
15	11月25日	声収録作業④				
16	11月26日	声収録作業⑤				
17	12月2日	声収録作業⑥				
18	12月3日	声収録作業⑦				
19	1月20日	声収録作業⑧				
20	1月21日	MA作業①				
21	1月27日	MA作業②				
22	1月28日	MA作業③				
23	2月3日	MA作業④				
24	2月4日	MA作業⑤				
25	2月10日	MA作業⑥				
26	2月17日	MA作業⑦				
27	2月18日	完成、作品試聴。反省会、試験対策、総評。				
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト						
注意事項	162時間中55時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					